

諸外国の高等教育分野における 質保証システムの概要

Overview of the Quality Assurance System
in Higher Education: The Netherlands

オランダ



© National Institution for Academic Degrees and University Evaluation 2011

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1

<http://www.niad.ac.jp>

「諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 オランダ」 完成によせて

独立行政法人 大学評価・学位授与機構長 平野 眞一



大学評価・学位授与機構は、評価事業、学位授与事業、調査研究等の中核的事業とともに、国外の質保証機関等との連携協力を通じて、我が国の高等教育の国際通用性の確保や質の伴った大学間交流の推進にむけた活動を推し進めています。

国際連携活動を展開する上では、我が国の高等教育質保証の制度や当機構の行う事業に関する情報を適切に発信するとともに、相手国・機関の仕組みや背景情報を的確に把握・理解することが不可欠です。このことは、実効的な連携協力の実現への大きな鍵であり、私どもはこうした「相互理解」の増進にむけた情報共有のためのツール・仕組みづくりに積極的に取り組んでいます。

当機構は、我が国の高等教育質保証に関する用語や制度の仕組み等を一元的に発信するためのツールとして「インフォメーション・パッケージ」を作成・公開しています。一方で、諸外国の高等教育制度・質保証制度に関する情報の収集も体系的に取り進め、このたび、「**諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要 オランダ**」を日本語・英語の2か国語で作成しました。

オランダは、高等教育の質が高いことで世界的に評価されていますが、このような評価は高等教育機関自身が行う内部レビューや外部評価機関によるアクレディテーションなど、国内の高等教育規制システムや質保証制度によって実現されています。また、オランダの機関は国際連携分野やその質保証においても幅広い経験を持っており、多様な形の国際連携を推進し、学生の流動性を高め、大学の国際化を推進するために必要な教育の質の担保のための取組を欧州地域、オランダ国内、質保証機関など様々なレベルで積極的に展開しています。本編ではオランダの高等教育制度とともに、欧州高等教育圏におけるオランダの高等教育質保証システムの概要について、公的機関の発信する情報をもとにとりまとめを行いました。

最後に、本編の作成にあたって多大なご支援・ご協力をいただいた、当機構の覚書締結機関であるオランダ・フランダースアクレディテーション機構（Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders: NVAO）、オランダ高等教育国際協力機構（Netherlands organization for international cooperation in higher education: Nuffic）ならびに駐日オランダ王国大使館に対し心より御礼申し上げます。また、有益なコメントやご支援をいただいた関係者の方々に御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構長
平野 眞一

目 次

I. オランダの基本情報	3
II. 高等教育制度	4
1. はじめに	4
1-1) 二元的制度	4
1-2) 3段階の学位制度	4
1-3) 大学の運営体制	4
1-4) 大学の財源	5
2. 沿革及び法的な位置付け	5
2-1) 研究大学	5
2-2) 高等職業教育の発展	6
2-3) 高等教育・研究法 (WHW)	7
3. 主要学校制度系統図	9
4. 高等教育機関の種類	10
4-1) 概略	10
4-2) 各種統計	12
5. 高等教育への進学	14
5-1) 入学要件	14
5-2) 高等教育機関への編入	14
5-3) 外国人学生の入学要件	14
5-4) オランダの移民と高等教育	17
6. 教育課程及び学位・資格	18
6-1) 単位制度	18
6-2) カリキュラム	18
6-3) 学位	20
6-4) ディプロマ・サブリメント	21
7. 高等教育所管官庁及び高等教育関係団体	21
8. 学生組織	22
9. 授業料及び学生に対する財政支援	23
9-1) 授業料	23
9-2) 学生に対する財政支援	23
9-3) 外国人学生対象の奨学金プログラム	26
10. 高等教育関係法令	27
11. オランダの高等教育に関する最近の動き	28
III. 質保証制度	29
1. オランダの質保証制度の概要	29
2. オランダ高等教育における質保証の歴史	30
3. 質保証制度の種類	32
3-1) 内部質保証	32
3-2) 外部質保証	33
3-2-1) 研究評価	33
3-2-2) アクレディテーション	34
3-3) 質保証と国際化	40
3-3-1) 全国教育資格枠組み	41

3-3-2) 留学生受け入れに関する条例 (Code of Conduct)	42
3-3-3) 外国で取得した資格の認定	42
4. 質保証に関する法令	45
5. 高等教育質保証に関する最近の動き	46
5-1) ランキング	46
5-2) 新しいアクレディテーション制度	46
IV. 質保証機関・高等教育国際協力機関の概要	49
1. オランダ・フランダースアクレディテーション機構 (NVAO)	
1-1) 基本情報	49
1-2) 使命・役割	50
1-3) 組織の法的基盤	50
1-4) 主な業務内容	50
1-4-1) 初期アクレディテーション (設置認可)	50
1-4-2) アクレディテーション (周期評価)	51
1-4-3) その他の業務	52
1-4-4) 国際化と質保証	52
2. オランダ高等教育国際協力機構 (Nuffic)	
2-1) 基本情報	57
2-2) 使命	58
2-3) 主な業務内容	58
2-3-1) 教育推進活動	58
2-3-2) 奨学金事業	58
2-3-3) 資格評価	59
2-3-4) 専門職認定	59
2-3-5) キャパシティ・ビルディング (能力向上)	59
2-3-6) コンサルティング及び研修	60
2-3-7) 情報サービス	61
2-3-8) 国際ネットワーク	61
出典・参考資料	63

I. オランダの基本情報

国名	オランダ王国	
首都	アムステルダム	
政府所在地	ハーグ	
公用語	オランダ語	
総人口*	1,653 万人 (2009 年)	
国内総生産 (GDP) *	796 億 7,000 万米ドル (2009 年)	
一人当たり国内総生産*	48,209 米ドル (2009 年)	
一般政府支出に対する 公財政教育支出の割合**	全教育段階：12.0% (13.3%) 高等教育段階：3.3% (3.1%) () は OECD 各国平均 (2006 年)	
国内総生産に対する 公財政教育支出の割合**	全教育段階：5.5% (5.3%) 高等教育段階：1.5% (1.3%) () は OECD 各国平均 (2006 年)	
学生一人当たり 学校教育費**	15,196 米ドル (2006 年)	
学生一人当たり 公財政支出高等教育費***	10,773 米ドル (2005 年)	
高等教育への 進学率****	60% (2007 年)	
学校教育制度	主要学校制度系統図 (9 ページ) 参照	
教授言語*****	<p>学士課程の多くはオランダ語での指導となるため、同課程を履修するにはオランダ語の十分な知識が必要。また、学術文献の多くは英語で書かれていることや、多くの課程は英語のみにより実施されていることから、英語にも堪能であることが求められる。修士課程では、英語により提供されるコースが増えてきている。英語で行われるオランダの高等教育コースのリストは次のウェブサイトに掲載：http://www.studyinholland.nl/</p>	
学年暦*****	9月1日～翌年8月31日	

出典：

* Ministry of Foreign Affairs of Japan: Overview of Kingdom of the Netherlands.
<http://www.mofa.go.jp/>

** Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) (2010): International Comparative Education: Statistics 2010-2011.

*** Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) (2009): International Comparative Education: Statistics 2009-2010.

**** OECD (2010): Education: Key tables from OECD.

<http://www.oecd-ilibrary.org/oecd/content/table/20755120-table2.jsessionid=2hmowk2t6qd1h.delta>

***** Leiden University website: <http://www.leidenuniv.nl/en/studyinleiden/>

***** European Commission: Eurybase - Organisation of the Education System in the Netherlands 2008/09.

http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/eurybase/eurybase_full_reports/NL_EN.pdf

Ⅱ. 高等教育制度

1. はじめに

1-1) 二元的制度

オランダの高等教育は、大きく2つの種類に分かれる。WO機関（WO：オランダ語で Wetenschappelijk onderwijs）とも呼ばれる研究大学は、学究的・専門的な環境の下、研究を中心とした個々の取組に重点を置いている。研究大学は基本的に、学究的な授業、研究を通じて学生を育てることに主眼を置いているが、教育課程の多くは専門職教育的な要素も備えている。一方、HBO機関（HBO：オランダ語で Hoger Beroepsonderwijs）とも呼ばれる高等職業教育機関は、学生を特定のキャリアに直接結び付けるようなより実務的な内容が中心となっており、その教育課程は、知識の実用化に重点を置いたものである（9ページ、主要学校制度系統図を参照）。

オランダ全体で、公的資金を受ける高等教育機関として、現在研究大学が14校、高等職業教育機関が42校ある。加えて、私立の大学や高等専門教育機関が多数あるほか、インターナショナル教育を提供する機関（Institutes for international education）も数校ある。

1-2) 3段階の学位制度

1999年、EUに加盟する国の教育担当大臣はボローニャ宣言に署名した。ボローニャ・プロセスは、各加盟国内の教育制度を統一し、学生及び教員のモビリティ（流動性）を促進するという目的で定められ、2010年までに欧州高等教育圏（European Higher Education Area）を建設し、教育制度の統一、透明化、質保証を重要な目標とするものであった。そして、欧州レベルで高等教育制度の標準化を図るために考案された方法のひとつが学士号、修士号、博士号の3段階からなる学位制度である。

オランダはボローニャ・プロセスの実践という点では先陣を切っており、研究大学では2002年からこの3段階の教育制度の導入が進められ、現時点で全ての教育プログラムでこの学位システムが採用されている。

文学士（BA）又は理学士（BSc）の学位が取得できる研究大学の学士課程は平均3年間で、より専門的な研究の基礎となる部分を幅広く、しかも非常に深く学ぶ。文学修士（MA）または理学修士（MSc）の学位が取得できる研究大学の修士課程は学問分野に応じて1～2年間である。

博士号を取得する博士課程は研究大学のみで提供され、教員による研究指導の下、4年間の正規課程を履修することが必須である。博士号を取得するためには独自性のある研究を行い、博士論文を作成・提出し、かつ公的な場における論文審査に通らなければならない。

1-3) 大学の運営体制

オランダの研究大学の運営体制は、1993年に制定の高等教育・研究法（WHW）に規定されている。また、1997年に行われた内部統治改革により、学内の運営はすべてのレベルにおいて変化することとなった。オランダの大学運営の特徴のひとつとして、教育機関の自治権の拡大があげられる。オランダの研究大学は国家に対し広範な自治権を確保しており、また学内においても、中心となる運営組織に対し各学部（学科）がある程度の独立性を保持している。

各研究大学では、役員会がその運営を行っている。役員会のメンバーのうち3名は、教育・文化・科学省

が任命した評議会によって選任される（ワヘニンゲン大学については、農業・自然・食品安全省が評議会を任命）。また、歴史的経緯から、ラドバウド・ナイメーヘン大学、ティルブルグ大学及びアムステルダム自由大学の役員会は選任の方法が異なる。

いずれの大学も、多数の学部を有する。各学部は学部長を頂点として組織されており、それぞれに役員会及び評議会（教授会）が存在する。

1-4) 大学の財源

大学の財源は、拠出元に依りて3つのフローに分かれる。第一のフローは政府の直接拠出によるもの、第二のフローは国内のオランダ科学研究機構（NWO）及びオランダ王立芸術科学アカデミー（KNAW）という研究審議会が研究プロジェクトに対して授与するものである。第三のフローは第三者機関が資金源となっており、これには企業や欧州連合（EU）など、公的機関と民間団体の両方が含まれる。

政府が拠出する第一のフローは、同国の教育・文化・科学省（ワヘニンゲン大学については、農業・自然・食品安全省）が一括で交付しており、この資金は各大学が用途を自由に決めることができる。第一のフローは教育に充当される部分と研究に充当される部分に分かれており、教育目的の資金は各大学が1年間に授与するディプロマの数に基づいて決められる。研究・教育の分野においてオランダの研究大学14校の権益を代表するVSNU（オランダ大学協会）は現在、教育・文化・科学省に対し、ディプロマの数だけではなく在学者数も加味して教育部分の拠出金額を決めるよう求め、交渉を進めている。第一のフローによる研究目的の資金は研究費全体の約60%を占めており、割合としては最も大きく、研究活動の構造的基盤を成している。

第二、第三のフローは合計で大学の研究費の40%を占めており、第二のフローは第三のフローの約半分ほどである。これらのフローは恒久的なものではなく、一時的な資金といえる。

さらに、授業料も大学の教育に関連するささやかな収入源となっている。なお、授業料を第一のフローとみなすべきか、第三のフローに含めるべきかを巡って議論がなされている。

VSNUの推定によると、オランダの研究大学の2010年予算は合計で約57億ユーロである。第一のフローは研究分野が17億ユーロ、教育・学習分野が16億ユーロとなっている。また、学生から徴収した諸費用分が4億ユーロ、NWOの拠出分が3億ユーロ、民間部門からの資金を含めその他の資金源によるものが17億ユーロとなっている。

2. 沿革及び法的な位置付け

2-1) 研究大学

オランダの研究大学の歴史は、ライデン大学が創設された1575年に遡る。同大学はオランダ独立戦争（1568～1648年）においてスペイン軍と戦った国民への褒賞として設立された。続いて、フローニンゲン大学（1614年）やユトレヒト大学（1636年）など他の大学も設立され、その後数世紀の間にさらに多くの大学が誕生した。1961年に設立されたトウェンテ大学や1976年設立のマーストリヒト大学などは経済的に厳しい状況に置かれた地域に対する政府の振興策という意味合いが強かった。また、プロテスタント系のアムステルダム自由大学やカトリック系のラドバウド・ナイメーヘン大学など、教会を設置母体と

する研究大学もあり、オランダの高等教育質保証システムであるアクレディテーション（適格認定）と関わり、政府による交付金を受けている。このように現在 14 あるオランダの研究大学は様々な設立背景を持っている。

1970 年代まで、研究大学はおおむね政府から独立し運営を任されていた。研究大学の運営はそれ自体の目的に基づくものとされ、政府はほとんど関与しなかったが、状況はその後急激に変化した。1970 年代の終わり頃、オランダの研究大学は諸外国に比べ学生の中退率が高いこと、学生の平均在籍期間が長いことが大きな問題となっていた。また、学生数の急増に合わせて採用された教員の多くは、来る 80 年代の様々な課題に対処するのに必要な資質やモチベーションに欠けていた。一方、大学組織の経営管理も総じて力不足で脆弱であり、あまりプロフェッショナルなものではなかった。結果として、大学は効率の悪い運営を余儀なくされ、高等教育をより効率的・効果的に運営するためには大規模な改革が必要であると考えられた。1970 年代の終わりから立案・実行されてきた改革・再編プロジェクトの中で最も重要であったのは、いわゆる二元的制度の導入による大学教育の再編成である。これは研究大学の教育制度を、学士号が授与される 4 年間の第 1 段階と修士号が取得できる大学院の第 2 段階に分けるというものであった。また、複数の学部の閉鎖や提供される教育課程の刷新につながった 2 度の研究大学の再編策や、条件付きで研究資金が支給される制度の導入も同様に重要であった。これらの研究大学教育再編策は、オランダの高等教育制度の運営・機能において新しいアプローチが採用された 1980 年代半ばまで続けられた。

2-2) 高等職業教育の発展

高等職業教育の始まりもかなり古くまで遡ることができるが、その発展は研究大学とは様相が異なるものであった。歴史のある高等職業教育機関の大半は 19 世紀に創設されており、ギルド（徒弟制度）から生まれた。高等職業教育における最初の法的枠組みは、初等家政教育、中等家政教育、そして技術教育の区分を定めた 1919 年家政学・技術教育法によって設けられた。1968 年には初等教育から大学教育までのあらゆる形態の教育を成文化した中等教育法（SEA）が議会で可決され、同時に新しい種類の教育として高等職業教育が制度化された。SEA 法の特徴のひとつに教育機関の実務面が詳細に規制されているという点があり、当時の教育・科学省もこれを利用した。このため、高等職業教育は更なる発展を遂げる上で厳しい制約を受けることとなった。当時の高等職業教育は特に多様化が過度に進み、統一がとれていなかった。

1960 年代後半から 1980 年代前半にかけて、オランダの高等職業教育は大幅に成長し、体系的な発展を遂げた。高等教育機関に進学する学生数が急激に増えたことで予算が逼迫するようになり、1980 年代を通じてこれが課題となった。他国における高等教育をとりまく情勢の変化もあいまって、オランダの高等職業教育機関は（1）研究大学に比べはるかに低コストであり、（2）定時制の教育課程にも対応しており、（3）オランダの経済的な成長にとって有益と思われる志向性を備えているなどの点から増加する学生数に対応する理想的な制度であると考えられるようになった。しかし高等職業教育が拡大したことで、今度はセクター内部の体制や研究大学との関係という点も議論されるようになった。

その結果、多数の白書が発表され、様々なシナリオが描かれたが、これらの取組に付随する興味深い慣習や政治的見解の相違、優れたレトリックを除くと、内容のある結果はあまり生まれなかった。高等職業教育の価値や取組は高く評価されていたものの、同部門を 1968 年 SEA 法の適用から除外しようとする動きは鈍かった。

1983 年、当時のオランダの教育・科学担当大臣は「規模拡大、役割の再割当、集中化」と題した白書にお

いて、高等職業教育を大幅に再編することを提案し、オランダの高等教育制度の構造及び機能に広範囲にわたり影響を与えることとなった。本白書による再編案の主な目的は、(1) 機関同士の合併による組織規模の大幅な拡大、(2) 資源の活用、人事方針及び教育課程の構成に関する機関の自治権の拡大、(3) 規模のスリム化による組織の効率化にあった。大臣は、再編策を実行することで機関の数が絞られ、大きな自治権を持った中規模の総合的な高等職業教育機関ができると考えた。しかし、機関合併の結果はあらゆる予想をはるかに上回るものとなった。もともと 350 超あった高等職業教育機関が 1987 年 7 月の時点で 85 機関に減少し、うち約 45 機関は「ほぼ大規模」から「非常に大規模」に分類される多目的型の機関に拡大した。特にいくつかの「非常に大規模」な機関は、既存の大学の大半よりも規模が大きくなった。このように、オランダの高等教育は制度面において劇的に変化してきた。また機能面においては、政府の教育運営における新たな理念を具現化した政策や、1986 年に新たに制定された高等職業教育法（HBO 法）に規定された枠組みを通じて自治権が拡大した。同法により高等職業教育が中等教育の枠組みから取り外され、正式に高等教育に組み入れられることで、すでにあった二元的な高等教育のあり方が公的に制度化された。

2-3) 高等教育・研究法（WHW）

高等教育・研究法（WHW）は 1993 年 8 月 1 日に施行された。同法はそれまでの大学法（WWO）、高等専門教育法（WHBO）、オープン・ユニバーシティ法（WOU）、その他高等教育及び研究を規定する多数の規制に代わるものとして制定されたものである。高等教育・研究法には、オランダの高等教育全体に適用される一般的な規定が定められているほか、以下についても規定されている。

- 研究大学、高等職業教育機関、オープン・ユニバーシティにのみ適用される規定。授業科目や組織の構成に関連しているもの
- 入学要件における学生の履修歴や学習量など、教育の構成に関するパラメーター
- 試験、学生、意思決定への関与、職員、計画、資金調達に関する規制
- 教育機関間協力に関する規定

高等教育・研究法は行政面において、オランダ政府と高等教育機関及び研究機関との関係を再定義するものであった。それまでの法律は、基本的に事前規制を規定しており、高等教育機関に対しては政府が中心的な責任を持つものとされていた。

一方、新たに制定された高等教育・研究法では、高等教育に対して政府は干渉せず、自治権を持った教育機関が柔軟に運営を行うという理念が示された。1985 年発表の政策文書「高等教育における自治権と質」（HOAK 文書）に基づいて立案された。同文書の原則的な考え方は、政府がパラメーターを定めること自体を目的とするのではなく、高等教育制度がより効果的に、かつ決断力を持って変化する社会のニーズに対応するための手段としてこれを定めた上で、教育機関にこの範囲の中で方針を決定するより大きな自由を与える、というものであった。

高等教育・研究法の基本的な考えのひとつに、自治権の概念がある。同法の設立により、政府は一般的な事柄に関して事前に細かな規制を敷くという方針から事後的な管理を担うという方針に変わった。同時に、同法は政府からの分権を図りつつも、高等教育制度の全体的な効率性に対しては政府が引き続き責任を負うとし、政府は「選択的統制」の下、必要なときに限り介入するとした。

高等教育・研究法によって定義された政府と高等教育機関及び研究機関との行政上の関係は、以下の原則に基づいて成り立っている。

- 高等教育・研究機関による自己管理・運営によって容認し難い結果がもたらされる可能性が高い場合に限り政府が介入する。
- 政府による介入は基本的に、高等教育制度上の欠陥を事後的に是正するという形をとることとする。
- 政府が自由に利用できる手段は、数を最小限に抑えた詳細な規制とすべきである。
- 高等教育・研究機関は法的安定性や合理性を確保し、適切な運営を確実にを行うための規範を定める。

高等教育・研究法により、教育機関には教育課程を策定する自由が大幅に認められた。高等教育機関は第一に、その教育の質を維持し、広い領域の教育・研究プログラムを提供し、また教育へのアクセスを確保することへの責任を負う。教育の質の管理は教育機関自身と、外部の専門家、そして政府に代わって高等教育視察団 (Inspectorate for Higher Education) が行う。原則として、政府は交付金が有効に活用されたか、また意図していた結果が得られたかという点を事後評価の形式で確認し、不十分な点が見つかった場合はそれを当該機関に通知する。求められる教育と実態との隔たりが長期にわたり改善されない場合、特に教育の質という点で改善が見られない場合、政府は適切な手続きを正しく踏んだ上で、法的許可に裏付けられた強制力を行使することができる。

1993年に制定された高等教育・研究法は、2002年に改正された。また、2009年の初めには同法の更なる改正を求める法案が議会に提出されている。新たな改正案は高等教育の質と、学生及び実務経験を有する職員の処遇を改善する目的で作成され、学生に対する法的保護や高等教育へのアクセス、入学登録や登録取消に関する管理プロセスの簡素化、運営組織と監督組織との明確な区別、試験委員会の役割等に関する問題に対処するものとなっている。

出典：

Centre for Higher Education Policy Studies (CHEPS) (2007): Higher Education in the Netherlands: Country report.

The Europe World of Learning 2010, Volume 2, Routledge, 2009.

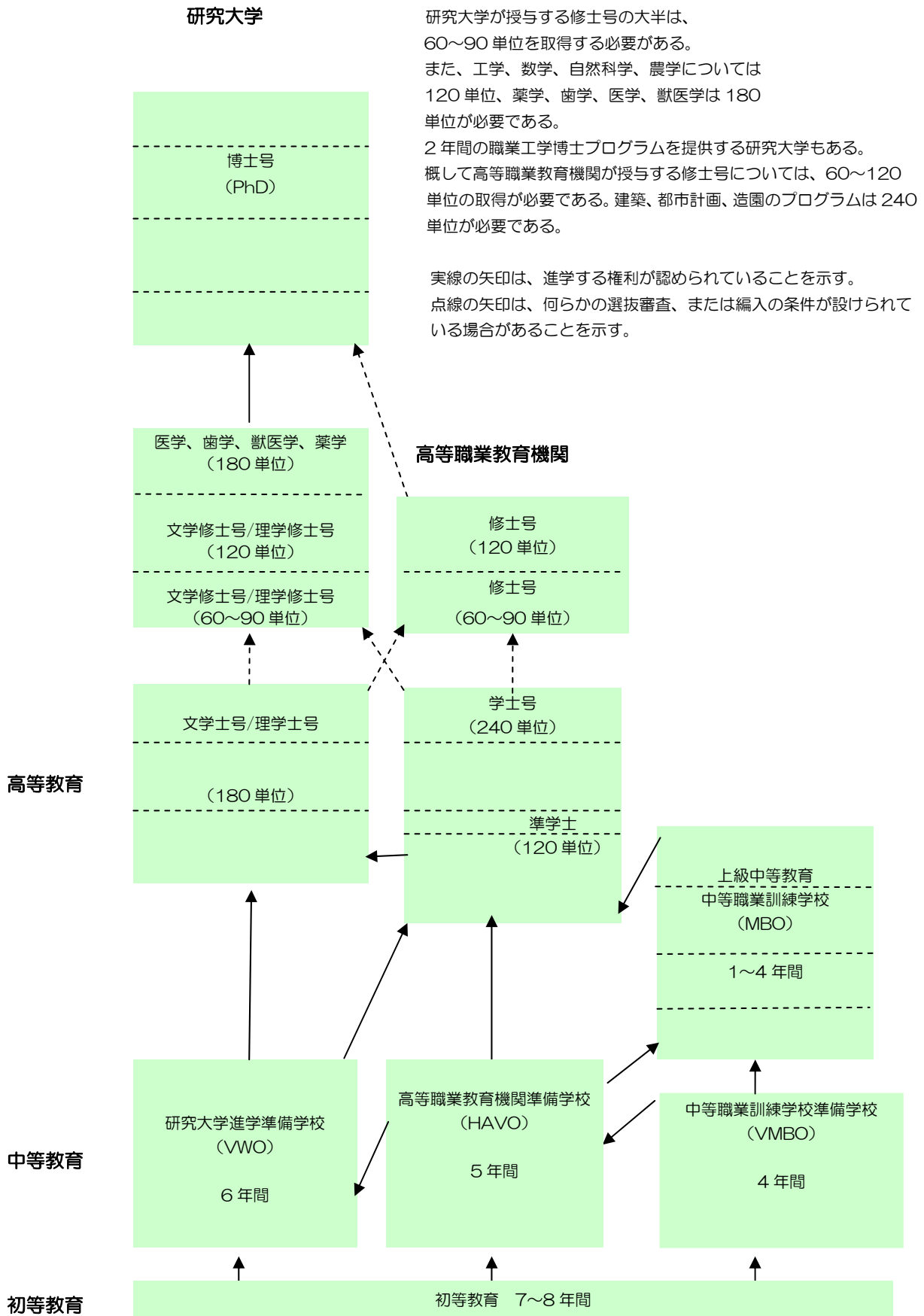
European Commission: Eurybase - Organisation of the Education System in the Netherlands 2008/09.

http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/eurybase/eurybase_full_reports/NL_EN.pdf

Karl Dittrich (NVAO): Internationalisation of Higher Education: Europe's Vision and the Attitudes of the Netherlands and Flanders (NIAD-UE Seminar presentation material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).

VSNU website: <http://www.vsnu.nl/Home-english.htm>

3. 主要学校制度系統図



研究大学が授与する修士号の大半は、60~90 単位を取得する必要がある。また、工学、数学、自然科学、農学については 120 単位、薬学、歯学、医学、獣医学は 180 単位が必要である。2 年間の職業工学博士プログラムを提供する研究大学もある。概して高等職業教育機関が授与する修士号については、60~120 単位の取得が必要である。建築、都市計画、造園のプログラムは 240 単位が必要である。

実線の矢印は、進学する権利が認められていることを示す。点線の矢印は、何らかの選抜審査、または編入の条件が設けられている場合があることを示す。

4. 高等教育機関の種類

4-1) 概略

研究大学 (Research universities)

オランダの研究大学は、研究及び教育における卓越した学術拠点となっている。研究大学では研究と教育が連動しており、学生と研究者の双方がユニークな経験をすることができる。歴史的に進取の気性に富み、国際的な視野に立つオランダの研究大学は国際社会と活発な連携を図っており、国外の学術機関だけでなく、社会や民間セクターも含めて協力関係を築き、交流を深めることに重点を置いている。オランダの研究者はオランダという国の規模の小ささを生かし、学問分野内あるいは学問分野間で協力しあっている。研究大学では、授業や研究に英語を用いることも広く受け入れられている。極めて整備された教学環境やキャリアの展望がオランダの研究大学ならではの魅力であり、国内外の才能を惹き付ける要素となっている。

今日、オランダにはオープン・ユニバーシティ1校を含め14の研究大学があり、いずれも質の高い教育と研究を提供している。工学・技術系の大学はデルフト工科大学、アイントホーフエン工科大学、トウェンテ大学の3校で、ワヘニンゲン大学は農学及び生命科学が中心である。残りの9校は幅広い学問分野を扱っている。また、8つの医療センターがあり、それぞれの大学によって運営されている。

研究大学の規模は様々で、在学者数は6,000人から30,000人まで幅がある。全体では約20万5,000人の学生が研究大学に在籍している。

オランダの研究大学

大学の種類	大学名
工学・技術系大学	<ul style="list-style-type: none">デルフト工科大学：http://www.tudelft.nlアイントホーフエン工科大学：http://www.tue.nlトウェンテ大学：http://www.utwente.nl
農業・生命科学系大学	<ul style="list-style-type: none">ワヘニンゲン大学：http://www.wur.nl
生涯学習に重点を置いた遠隔教育大学	<ul style="list-style-type: none">オープン・ユニバーシティ：http://www.ou.nl
総合大学	<ul style="list-style-type: none">エラスムス大学ロッテルダム：http://www.eur.nlライデン大学：http://www.leidenuniv.nlマーストリヒト大学：http://www.unimaas.nlラドバウド・ナイメーヘン大学：http://www.ru.nlティルブルグ大学： http://www.tilburguniversity.nlアムステルダム大学：http://www.uva.nlフローニンゲン大学：http://www.rug.nlユトレヒト大学：http://www.uu.nlアムステルダム自由大学：http://www.vu.nl

研究の卓越性

オランダの研究大学は、これまで確かな研究実績を築いてきた。同国では才能のある若い研究者が、未来をリードする立場に立つべく研鑽を積んでいる。新しく設立された大学院は幅広い学問領域を扱い、健全な競争を促している。自らの知的能力と潜在性の高さを意識している若手研究者らは当然、最先端の技術を備え、一流の教員が指導するトップレベルの教育機関に在籍することを重視する。そのため、オランダの研究大学はそれぞれが専門とする特有の学問分野を探求するだけでなく、海外にある大学や卓越した研究拠点と連携

協力関係を深めている。

オランダの多くの大学は、主要な国際大学ランキングに登場している。例えば、オランダの研究大学のほとんどが英国 Times Higher Education の世界大学ランキングにランクインしており、2009 年度の同ランキングによれば、11 校が世界トップ 200 大学の中に入っている*。また、出版物における相対的な被引用度で見ても、オランダの大学は極めて優れた実績を残している**。オランダの人口規模の小ささ（約 1,650 万人）を考えると、特に科学分野における被引用度は国際的に見ても傑出しているといえる。

* 2009 年度 Times Higher Education 世界トップ 200 大学ランキングにおけるオランダの大学の順位：アムステルダム大学（49 位）、ライデン大学（60 位）、ユトレヒト大学（70 位）、デルフト工科大学（83 位）、エラスムス大学 ロッテルダム（108）、マーストリヒト大学（116 位）、アイントホーフエン工科大学（120 位）、フローニンゲン大学（138 位）、ワヘニンゲン大学（155 位）、アムステルダム自由大学（165 位）、トウェンテ大学（200 位）

** 過去 10 年間の国別ランキングにおけるオランダの順位（1997～2007 年）

	論文発行数	論文引用件数	1 論文当たりの被引用件数
オランダ全体での合計	214,031 本	2666,383 件	12.46 件
オランダの順位	12 位	8 位	7 位

高等職業教育機関 (Universities of applied sciences)

高等職業教育機関における教育課程は、キャリア志向型の構成である。これらの教育機関は企業の経営者や高等学校の教員、看護師などの職業や技術専門職などに就くための教育に重点を置いている。インターンシップを通じて実践的な職業経験を積むことも専門教育課程においては不可欠である。現在、オランダには政府の認可を得た高等職業教育機関が 42 校あり、最大規模の機関では、2 万人から 3 万 9 千人の学生が在籍している。全体では約 35 万人の学生が高等職業教育機関に在籍している。

インターナショナル教育機関 (Institutes for international education)

このほかに、オランダには 50 年以上の歴史を持つ別の形態の高等教育がある。International education と呼ばれる上級教育課程で、授業は英語で行われている。こうした機関における教育課程は開発学を中心とし、異なる文化的背景を持つ学生からなる小人数のグループを基本に、途上国での豊富な実務経験を持つ教師がファシリテーター役を務めながら、知見を議論することに重きが置かれている。

さらに、オランダには私立の教育機関・団体が多数あり、会計や企業経営など様々な専門分野に関する公認の修了証やディプロマ・学位を授与している。なお、これらの機関は通信教育あるいは遠隔学習の形態をとることが多いため、通常、学外学習という形で編成されている。

出典：

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Radboud University Nijmegen (2009): Radboud University Nijmegen: ECTS Information Guide 2009-2010.

VSNU website: <http://www.vsnunl/Home-english.htm>

Times Higher Education website: <http://www.timeshighereducation.co.uk/>

4-2) 各種統計

機関数 (2010年)

研究大学 (オープン・ユニバーシティを含む)	14
高等職業教育機関	42
インターナショナル教育機関	11
合計	67

学生数 (2007~2008年)

研究大学	211,446
高等職業教育機関	373,532
合計	584,978

研究大学における学位取得率

	2004年	2006年	2008年
理学	63%	51%	52%
工学・科学技術	58%	55%	57%
健康科学	85%	78%	77%
経済学	62%	59%	61%
法学	56%	51%	55%
行動・社会学	64%	59%	59%
言語・文化学	52%	46%	42%
農業・自然環境学	83%	80%	80%
研究大学教育プログラムの平均学位取得率*	74%	69%	69%

* 研究大学全体での学位取得率は、各分野の学位取得率よりも高くなっている。これは一部の学生が入学時とは異なる分野に移った上で卒業するためである。

英語によるプログラムの数 (2007~2008年)

学位プログラム	956
非学位プログラム	376
合計	1,332

高等教育機関に在籍する教員数 (2007年)

	研究大学	高等職業教育機関
総教職員数	370,000	274,000
教員	207,000	149,000
職員	163,000	125,000
学生に対する教員の割合	10.0%	24.5%

オランダの外国人学生（2009年11月現在）

外国人学生の数*

EU/EFTA圏出身の学生**	30,400
非EU/EFTA圏出身の学生	17,850
交換留学生	7,250
その他（ディプロマ移動、単位移動等による学生）***	20,500
合計	76,000

* 数字は概数。在学者数は、政府による財政補助を受ける教育プログラムへの履修者数を示す。

** EFTA（欧州自由貿易連合）：アイスランド、ノルウェー、リヒテンシュタイン及びスイス

*** ディプロマ移動：国外で教育プログラムを修了すること

単位移動：母国の教育プログラムを修了するため、国外の教育機関で単位を取得すること

出身国別外国人学生数

ドイツ	19,750
中国	5,000
ベルギー	2,500
スペイン	1,950
フランス	1,650
日本	300

外国人学生に人気のある学位プログラム

	研究大学	高等職業教育機関
1	経済学	経済学
2	行動・社会学	言語・文化学
3	科学技術	科学技術
4	言語・文化学	保健学

出典：

Dutch Ministry of Education, Culture and Science: Key Figures 2004-2008:

<http://english.minocw.nl/documenten/key%20figures%202004-2008.pdf>

Nuffic: Most people see windmills, Life and Study 2010/2011.

Nuffic: Most people come for the tulips, Life and Study 2009/2010.

European Commission: Eurybase - Organisation of the Education System in the Netherlands 2008/09.

http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/eurybase/eurybase_full_reports/NL_EN.pdf

5. 高等教育への進学

5-1) 入学要件

研究主体の学士号が取得できる研究大学に入学するためには、VWO（研究大学進学準備学校）の修了証書（ディプロマ）を持っているか、高等職業教育機関の学士課程の第1年次（60単位）を修了していることが求められる。また、高等職業教育機関に入学するためには、HAVO（高等職業教育機関準備学校）のディプロマを取得しているか、所定の条件を満たした上でMBO（中等職業訓練学校）のディプロマを持っていることが求められる。

VWOのディプロマを取得していれば、研究大学あるいは高等職業教育機関の両方に出願することが可能である。どちらのタイプの機関に進学する場合でも、希望する高等教育課程が定めた科目群の少なくとも1つを修了しておくことが要件となっている。いわゆる定員制限制度は、主に医学などの一部の教育課程で適用されており、ほとんどの教育課程では抽選によって進学先が割り当てられる。また22歳以上の進学希望者が必要な資格を取得していない場合は、入学試験及び入学評価（既習歴の評価）の結果を踏まえ、高等教育への進学資格を得ることができる。また一部の教育プログラム、特に美術系の課程については、当該プログラムの履修に必要な芸術面での能力を示すことが求められる。

オープン・ユニバーシティについては、出願の時点で18歳以上であることが唯一の要件である。

修士課程に進学するには必ず特定の学問分野における学士号を1つ以上取得していなければならない。また場合によってはその他の要件が加わることもある。高等職業教育機関に文学及び理学士の学士号を取得している者が研究大学の修士課程に進学する場合は、追加の要件を満たさなければならないこともある。

5-2) 高等教育機関への編入

オランダの高等教育において、学生は異なるレベルあるいは異なる種類の教育プログラムに編入することが可能である。この場合、専門教育型の機関（高等職業教育機関）の下で学士課程の準備クラスを1年間履修してから、研究教育型の機関（研究大学）で学士課程を履修することもできるほか、研究大学の教育プログラムから高等職業教育機関の教育プログラムに編入することもできる。準学士を取得した学生は、専門教育型の高等職業教育機関において関連する学士課程に編入し、残りの課程を履修することができる。原則として、学士号があれば修士課程に進学することが可能であり、また修士号があれば続けて博士課程に進むことができる。

5-3) 外国人学生の入学要件

オランダの高等教育機関による教育プログラムの履修を希望する外国人学生は、まず当該のプログラムを提供している教育機関に連絡を取る必要がある。また、入学要件に関してもいくつかの留意点がある。

学士課程への進学においてまず必要なのは、適切なレベルの中等教育の資格の取得である。また、例えば美術など特定の教育プログラムでは、教育機関がそれぞれ追加の要件を設けている場合もある。オランダのVWOディプロマ（又はHBOディプロマ）を持たない国外の学生は、自国で取得した資格を認定してもらえるよう申請しなければならない。教育機関はこれを受けて、当該国外資格とオランダのVWOディプロマ等とを比較評価し、レベルを判断する。オランダの研究大学の入学に必要なディプロマ（VWO等）とおおむね同等と評価される資格のリストについては、次のウェブサイトを参照：

<http://prospectivestudents.leiden.edu/programmes/bachelor/admission/ba-bsc-requirements.html> (ライデン大学) [英語・オランダ語]

修士課程への進学については、少なくとも1つ以上の学士号またはこれと同等の資格を取得していなければならない。また、一部の人気の高い分野では定員数が限られており、入学制限が適用される。

インターナショナル教育の大半のプログラムは英語での授業であるため、外国人学生には英語のスピーキング、リーディング、ライティングに関する十分な能力が不可欠である。英語のスキルに関する水準を満たしていることが求められる場合もある。一般的にIELTS及びTOEFLが、インターナショナル教育機関などによってはそれ以外の試験の結果が認められることもある。TOEFLは550点(ペーパー版)、IELTSは6点が合格最低点である。個々のプログラムやコースにおける語学の要件については、ウェブサイト

<http://www.studyin.nl/>の国際コースのデータベース [英語]を参照のこと。

◇ 外国人学生のための情報源

学生生活関連

オランダ外務省：<http://www.minbuza.nl/> [英語・オランダ語・ドイツ語・スペイン語・フランス語]

各国のオランダ大使館の所在地が掲載されているサイト

オランダ移民・帰化局：<http://www.ind.nl/> [英語・オランダ語]

オランダ移民法に関する情報

オランダ中央統計局：<http://www.cbs.nl/> [英語・オランダ語]

オランダの各種統計情報

Expatica：<http://www.expatica.com> [英語]

国内外のニュースや様々なトピックを集めた情報サイト

Holland Handbook：<http://www.xpat.nl/> [英語]

オランダでの生活・就労に関する情報ハンドブック

オランダ政府観光局：<http://www.holland.com/> [英語]

オランダ政府観光局のサイト

Preparing your stay：<http://www.nuffic.nl/preparingyourstay> [英語]

ビザや滞在許可、保険、住宅、ディプロマ評価などに関する手続きを概説

Staying in Holland：<http://www.nuffic.nl/stayinginholland> [英語]

入国後の諸手続き、アルバイト、職業訓練制度、学業修了後の就労などについての情報を提供

学習関連

国際的な高等教育関連団体・組織

オランダ教育・文化・科学省：<http://www.minocw.nl/> [英語・オランダ語]

オランダ政府教育・文化・科学省による情報提供

DUO(教育・文化・科学省教育行政機構)：http://ib-groep.nl/International_visitors/ [英語]

DUO(前身はIB-Groep)は教育・文化・科学省所管の半独立行政組織で、学生財政支援法(WSF)の施

行を担うほか、学費や給付金のスキームを手がける。本ウェブサイトでは奨学金やオランダの教育、ディプロマ評価に関する情報を提供

NVAO : <http://www.nvao.net/> [英語・オランダ語]

オランダ・フランダースアクレディテーション機構のウェブサイト。既存の教育プログラムのアクレディテーション及び新規の教育プログラムを対象とした評価に関する情報

Nuffic : <http://www.nuffic.nl/> [英語・オランダ語]

オランダ高等教育国際協力機構のウェブサイト。留学全般、大学・語学学校の情報を提供

VSNU (オランダ大学協会) : <http://www.vsnu.nl/> [英語・オランダ語]

研究、教育、知識の移転、資金調達、人事方針、国際関係の分野においてオランダの研究大学 14 校が共有する権益を代表する団体のウェブサイト

HBO-raad (オランダ高等職業教育機関協会) : <http://www.hbo-raad.nl/> [英語・オランダ語]

オランダ政府の財政支援を受ける全ての高等職業教育機関及び高等専門教育機関が所属する団体組織のウェブサイト。高等教育制度や高等職業教育機関などの情報を提供

Access (Administrative Committee to Coordinate English-Speaking Services) : <http://www.access-nl.org/> [英語]

オランダ国内にある外国人コミュニティの支援活動を行う非営利組織

PIE (Platform for International Education in the Netherlands) : <http://www.pieonline.nl/> [英語]

開発途上国及び体制移行途上国の学生と教職員を対象とした教育、研究、コンサルティングを通じ、教育・研究能力の組織的強化を目指すオランダの高等教育機関の活動を支援する組織

SAIL (大学院国際教育機関協議会) : <http://www.sail.nl/> [英語・オランダ語]

オランダにある専門的な高等教育センターの統轄組織。SAIL の加盟機関はいずれも開発途上国における能力開発、教育、研究、助言サービスを提供している。

IDW : <http://www.idw.nl/> [英語・オランダ語]

資格評価に関する情報センターのウェブサイト

国際的な高等教育に関連するウェブサイト

Internationalstudy : <http://www.internationalstudy.nl/> [英語]

留学生受け入れに関する条例 (Code of Conduct) 及びこれを批准しているオランダの高等教育機関のリスト

Studychoice : <http://www.studychoice.nl/> [英語・オランダ語]

オランダの高等教育に関する情報を提供するサイト

Study in Holland : <http://www.studyinholland.nl/> [英語]

オランダでの学業に関する多彩な情報を載せたサイト。英語で授業を行う教育プログラムのデータベースも掲載

Grossroads : <http://www.grossroads.eu/> [英語]

質保証（アクレディテーション）を受けた欧州諸国の教育プログラム及び教育機関の概要などを掲載したポータルサイト

日本学生支援機構（JASSO）オランダ留学 : http://www.jasso.go.jp/study_a/oversea_info_ne.html [日本語]

オランダへの留学を希望する日本人学生に有益な情報を掲載したウェブサイト

奨学金関連

Grantfinder : <http://www.grantfinder.nl/> [英語]

外国人学生が利用できる奨学金情報を幅広く集めた検索サイト

Scholarships : <http://www.nuffic.nl/scholarships> [英語・オランダ語]

外国人学生を対象とした奨学金に関する Nuffic のサイト

出典 :

Dutch Ministry of Education, Culture and Science:

<http://english.minocw.nl/documenten/OCW-NVAO%20Folder%20ENG%20def.pdf>

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Nuffic: Most people come for the tulips, Life and Study 2009/2010.

Nuffic: Most students prepare for a study, International Degree Programmes 2009/2010.

5-4) オランダの移民と高等教育

オランダは今日、多文化社会の色合いをますます強めつつある。インドネシアやスリナム、アルバ、オランダ領アンティル*といったかつてのオランダの海外領土や、トルコ、モロッコ、その他様々な国から多数の移民を受け入れており、現在のオランダの総人口のうち、約18%は比較的最近移住してきた移民が占めている。2003年から2007年にかけてオランダの高等教育機関に入学した移民系学生の割合は初年次学生全体の約30%となっている。

* アルバとオランダ領アンティルはカリブ海の島国で、いずれもオランダ王国を形成する一地域である。オランダ領アンティルは1954年以来、国務の大半において半自治権を有している。アルバは1986年1月1日までオランダ領アンティルの一部であったが、オランダ王国の自治領として分離した。アルバの住民はオランダのパスポートを持つ。

移民学生の受け入れ（2008年）

出身国名	比率	
	研究大学	高等職業教育機関
スリナム	5%	10%
モロッコ	2%	9%
トルコ	4%	10%
オランダ領アンティル	3%	6%
その他の非欧米諸国	24%	20%
欧米諸国	62%	45%

出典 :

Dutch Ministry of Education, Culture and Sciences: Key Figures 2004-2008

<http://english.minocw.nl/documenten/key%20figures%202004-2008.pdf>

Radboud University Nijmegen (2009): Radboud University Nijmegen: ECTS Guide 2009-2010.

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

U.S. Department of State website: <http://www.state.gov/r/pa/ei/bgn/index.htm>

6. 教育課程及び学位・資格

1999年にボローニャ宣言が採択されて以来、オランダを含む欧州各国の高等教育には数々の変化が訪れた。ボローニャ宣言の目的は、欧州高等教育圏を建設し理解しやすく比較可能な学位システムを整備することにあった。教育における国内外のモビリティ（学生・教員の流動性）を促進し、教育の質保証にむけて欧州諸国の協力を深めるため、学士、修士からなる学位制度と欧州単位互換積算制度（ECTS）という単位制度が導入された。

6-1) 単位制度

欧州単位互換積算制度（ECTS）

ボローニャ宣言に従い EU の欧州委員会は、欧州単位互換積算制度（ECTS）*をさらに発展させ、留学時の学習の認定を保証するための共通の手続きとしてこれを整備した。ECTS は学習量を測定するための標準化された単位制度で、国際的な教育のモビリティを高めることを目的として構築され、オランダの高等教育機関は 2002 年に ECTS を正式に導入した。同制度の導入により、学習量を測定・比較するとともに、修得した単位をある教育機関から別の教育機関へ転移（Transfer）させることが可能となった。ECTS は欧州の高等教育制度の脱中央集権化を目指して構築されたものであり、参加機関の相互の信頼という原則によって成り立っている。なお、相互の信頼関係を強化するため、ECTS では教育プログラムに関する情報、学生の所属機関と留学先機関との間の合意、学生の学習量を示す単位の使用に関していくつかの規則が設けられている。

1 ECTS 単位は、28 時間のフルタイムの学習量（面接指導、課題読書、自習、試験のプレゼンテーション等を含む）に相当し、1 年間（1 学年歴）の教育プログラムは 60 ECTS 単位（1,680 時間）の学習量で構成される。

*ECTS は今日カリキュラム編成の場で主に活用されているが、もとは学生・教員の国際交流を目的としたエラスムス計画において留学中の学業認定を容易にするため、ボローニャ宣言から遡る 1988 年の段階で確立されたものであった。また、単位制度自体はバルト 3 国やハンガリー、アイルランド、北欧諸国、英国、トルコなど多くの国々で古くから利用されてきた。ただし、ボローニャ宣言に基づく改革が始まったことで、ECTS は国レベルの単位累積制度として発展し、さらには欧州高等教育圏全体における主流の単位制度として位置付けられるようになった。

6-2) カリキュラム

学習量

オランダの法令（高等教育・研究法）は学士課程を、学位の取得に必要な ECTS の単位数で定義している。また、伝統のある研究大学が授与する学士号と高等職業教育機関が授与する学士号とは明確に区別されている。研究大学の学士号は 180 ECTS 単位が必要であるのに対し、高等職業教育機関で学士号を取得す

るには 240 ECTS 単位が必要である。必要単位数の違いは中等教育段階の違いに起因している。つまり、研究大学の方がレベルが高いため、高等職業教育機関の学生が同等の学位を取得するには、より多くの単位を取得しなければならないということである。修士号の取得に必要な ECTS 最小単位数も法律で定められている。修士課程の大半（人文科学や経済学、社会科学、法学など）は 60 ECTS 単位が必要だが、一部の課程は 120 ECTS 単位（主に自然科学の分野）、あるいは 180 ECTS 単位（医学）から 240 ECTS 単位と必要な単位数には幅がある。

教育の構成

講義

講義は、考察するテーマについて幅広く学ぶ概論的なもので、通常、講師 1 名が多数の学生に対して行う。講義の最後に質疑応答の機会が設けられることもある。通常は 1 コマ 1 時間 45 分で、途中 15 分の休憩をはさむ。講師は理解をさらに深めるための推薦図書を提示することもある。

演習

演習では、あるテーマについて深く掘り下げて議論しあう。10 人から 30 人までの小人数の学生グループに対し、教員 1 名が担当する。学生は演習に積極的に参加することが求められ、グループに対して口頭のプレゼンテーションを行うこともある。これは考察するテーマについて知識を習得し理解を深めるだけでなく、自分に自信を持ち、落ち着いて意見を発表できるようにするためでもある。

チュートリアル

チュートリアルは、少人数の学生グループが選択されたトピックについて教員 1 名と議論しながら学ぶものである。議論は読書課題や事前に準備したレポート等を踏まえて行われることもある。チュートリアルでは、テーマについて徹底的な分析を行う。この学習形態は、講義や演習を行うには学生の数が必要に満たないという場合に限り実施される。

レポート

レポートの長さは、数百ワードから数千ワードまで様々である。通常、レポートの最大ワード数は事前に学生に指示される。レポートでは、考察するテーマについての深い洞察や、必須の文献についての知識を示すことが求められるほか、テーマについての分析ができること、また意見を明確かつ正確に述べられることを示す必要がある。

コースワーク

学期中、学生は履修した科目に積極的に参加することが求められる。すなわち、講義や演習に備えて予習をし、宿題をやり、適切な課題をこなさなければならない。これらをまとめてコースワークという。

成績評価

履修科目の成績は、論文や筆記試験、口述試験など様々な方法で評価される。これらは講義や演習、チュートリアルを通じて論じられたテーマについての学生の理解度を評価するために用いられる。口述試験は通常、30 分から 1 時間程度をかけて行われる。筆記試験は 2~3 時間程度のことが多い。筆記試験では、選択問題または記述問題に答えなければならない。

成績基準

オランダの高等教育機関の大半は、ECTS の成績基準ではなく、従来からある 10（最高点）から 1（最低点）までの成績基準を用いている。ただし、両者には互換性がある（次ページの表を参照）。従来からあ

るオランダの成績基準では、合格最低点は6で、9や10が付けられることは滅多にない。成績が5と6の間にある場合、5.5で端数を切り上げる。つまり、5.4は不合格、5.5は合格となるが、成績を元に合格/不合格を決める権限は当該学部の試験委員会にある。

ECTSの成績基準は、ECTSの単位制度を用いる学生が留学先の教育機関で得た成績を読み換える手段として考案された。ECTSの成績基準は、学生の留学先が提示した成績に付け加える形でその成績に関する情報を提供するもので、現地の成績自体を変換するものではない。

ECTSの成績基準とオランダの成績基準

ECTS 基準	オランダ基準	定義
A	10	秀：ごく小さなミスだけの傑出した成績
B	9	優：いくつかのミスがあるものの平均水準を上回る
C	8	良上：おおむね良好な成績だが目立つミスが多数ある
D	7	良：悪くはないが重大な欠落部分がある
E	6	可：最低限の基準は満たしている
FX	5-1	不可 (FX)：単位を認定する前にもう少し勉強する必要がある
F		不可 (F)：さらに相当な勉強をする必要がある

6-3) 学位

ボローニャ・プロセスを導入した結果、オランダの高等教育は現在、学士、修士、博士の3段階で構成される学位制度により成り立っている。

第1段階を修了した学生には、学士号が授与される。第2段階、第3段階を修了すると、修士号、博士号がそれぞれ授与される。なお、従来からあるオランダ語の学位名称 (*doctorandus* (drs.)、*ingenieur* (ir)、*meester* (mr.)) も使われている。大学院修士課程を修了した学生は、博士課程に進む資格が得られる。

学位の種類と取得に必要な標準修業年数・単位数

	研究大学	高等職業教育機関	国際教育機関
博士号 (PhD)	4年	-	-
修士号 (M)	-	1~2年 (60~120 ECTS)	-
文学修士号 (MA)	1~2年 (60~120 ECTS)	-	1~2年
理学修士号 (MSc)	1~2年 (60~120 ECTS)	-	1~2年
学士号 (B)	-	4年 (240 ECTS)	-
文学士号 (BA)	3年 (180 ECTS)	-	-
理学士号 (BSc)	3年 (180 ECTS)	-	-

6-4) ディプロマ・サブリメント

ディプロマ・サブリメント (Diploma Supplement) は EU モデルに基づいた、学生が受け取る高等教育の修了証明書 (ディプロマ) に添付される文書である。ディプロマ・サブリメントには学生が履修・修了したモジュールの特性やレベル、コンテキスト、法的位置付けが記載されているほか、成績証明書としての情報、その国において当該の証明書を授与する教育制度の枠組みなどについても説明されている。ディプロマ・サブリメントは、国際的な観点から学位の透明性を確保するとともに、欧州諸国で授与される資格 (ディプロマ、学位、サーティフィケート) を学術的、専門的見地から公正に認定するためのツールとして開発されたものである。ディプロマ・サブリメントには EU の欧州委員会、欧州評議会及び国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) が共同で策定した定型書式があり、各高等教育機関はこれに沿って作成したものを発行している。ディプロマ・サブリメントは次の 8 項目から構成されている。

- 当該資格の取得者に関する情報
- 当該資格の基本情報
- 当該資格のレベルに関する情報
- 履修内容と成績に関する情報
- 当該資格の機能的役割に関する情報
- 追加情報
- 当該ディプロマ・サブリメントの発行証明
- 当該資格を発行した国の高等教育制度に関する情報

オランダの高等教育機関は、2006 年 1 月 1 日から正式にディプロマ・サブリメントを導入している。

出典：

State University of Groningen (2009): Welcome to the State University of Groningen: A Handbook for International Students 2009-2010.

Radboud University Nijmegen (2009): Radboud University Nijmegen: ECTS Information Guide 2009-2010.

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

State University of Groningen website: <http://www.rug.nl/>

Leiden University website: <http://www.leiden.edu/>

Qrossroads website: <http://www.qrossroads.eu/>

European University Association (2010): Trends 2010: A Decade of Change in European Higher Education.

7. 高等教育所管官庁及び高等教育関係団体

政府省庁

政府の関係省庁は、オランダの高等教育に関する公共政策全体に対して責任を負っており、高等教育機関を支える公的資金の拠出元でもある。

- オランダ教育・文化・科学省：<http://www.minocw.nl/>
- DUO (教育・文化・科学省教育行政機構)：http://ib-groep.nl/International_visitors/

研究カウンスル

- NWO (オランダ科学研究機構)：http://www.nwo.nl/nwohome.nsf/pages/SPPD_5R2QE7_Eng
- KNAW (オランダ王立芸術科学アカデミー)：<http://www.knaw.nl/>

代表団体

- VSNU（オランダ大学協会）：<http://www.vsnu.nl/>
- HBO-raad（高等職業教育機関協会）：<http://www.hbo-raad.nl/>

質保証・国際協力機関

- NVAO（オランダ・フランダースアクレディテーション機構）：<http://www.nvao.net/>
- QANU（オランダ大学質保証機構）：<http://www.qanu.nl/>
- Certiked VBI bv（Lloyd's Register Nederland B.V.）：<http://www.certiked-vbi.nl/>
- EAPAA（European Association for Public Administration Accreditation）：
<http://www.eapaa.org/>
- Hobéon（Hobéon Certificering bv）：<http://www.hobéon.nl/>
- NQA（Netherlands Quality Agency）：<http://www.nqa.nl/>
- Nuffic（オランダ高等教育国際協力機構）：<http://www.nuffic.nl/>
- CROHO（政府認定高等教育プログラム登録）：
<http://www.ib-groep.nl/zakelijk/ho/croho/croho.asp>
- ENIC/NARIC Netherlands（ヨーロッパ情報センターネットワーク/全国学術承認センターネットワーク（ENIC/NARIC））：<http://www.enic-naric.net/>
- ASIIN（工学・情報学・自然科学学位プログラムアクレディテーション機構）：<http://www.asiin-ev.de/>
（NVAO認証質評価機関）
- FIBAA（国際ビジネス管理アクレディテーション基金）：<http://www.fibaa.de/>（NVAO認証質評価機関）

8. 学生組織

LSVb（オランダ全国学生連盟） <http://www.lsvb.nl/> [英語・オランダ語]

LSVbはオランダ各地の学生自治会12団体からなる連盟で、1983年に設立された。各地の学生自治会はそれぞれの地域の大学における学生の権利を保護する役割を担っており、LSVbはオランダ政府や地方自治体、大学、DUO（教育・文化・科学省教育行政機構）が学生の利益に配慮するよう働きかける組織である。学生の声が届くよう、議員らや教育担当大臣、その他高等教育の利害関係者との協議を行い、全ての学生が継続的に高等教育に参加できる環境の整備、教育の質の維持・向上にむけた取組を行っている。また学生が借りる住居の賃料を適切な水準に抑えている。また、研修・職業訓練や住居、法的支援に関するサービスも行っている。

AIIESEC（国際経済商学学生協会） <http://www.aiiesec.nl/> [英語]

AIIESECは1948年に設立された国際的な学生団体で、世界100か国以上の1,100を超える大学で活動している。AIIESECはメンバー相互の異文化理解を深め、人間性を磨くことに重点を置いている。オランダのAIIESECでは、オランダ人学生を海外へ派遣し、また外国人学生をオランダに招待する国際インターンシッププログラムや、大学の1年生と2年生が夏の2か月間、AIIESEC活動国に滞在する交換プロ

グラムなどを運営している。

AEGEE (欧州諸国学生協会) <http://www.aegEE.org/> [英語]

AEGEE は 1985 年に設立された欧州出身の学生による非政治的な学生協会で、現在 AEGEE のネットワークを構成する学生は約 13,000 人、欧州内外の 180 以上の地域に拡がって活動している。平和と安定、異文化交流、高等教育、積極的な社会参加を推進することを目的としており、ネットワークを通じて会議や夏季大学プログラム、交流プログラム、European Schools と呼ばれる国際的な研修プログラム、欧州出身メンバーの会議など多数のイベントを開催している。

出典：

Dutch National Union of Students (LSVb) website: <http://www.lsvb.nl/>

AIESEC the Netherlands website: <http://www.aiesec.nl/>

AEGEE website: <http://www.aegEE.org/>

State University of Groningen (2009): Welcome to the State University of Groningen: A Handbook for International Students 2009-2010.

Radboud University Nijmegen (2009): Radboud University Nijmegen: ECTS Information Guide 2009-2010.

9. 授業料及び学生に対する財政支援

9-1) 授業料

オランダの研究大学は学士課程、修士課程のいずれにおいても授業料を課しているが、その額は大学や学問分野によって異なる。オランダ又は他の EU 加盟国の国籍を持ち、フルタイムの教育プログラムを履修する 30 歳未満の学生に対する授業料(上限)はオランダ政府により定められている。それ以外の学生(31 歳以上のフルタイム学生、出身地が EU 加盟国以外の学生、学生財政支援を受ける資格を持たない外国人学生、パートタイムの学生)については、各大学が授業料を決めることができる。年間授業料は、EU 加盟国の学生の場合で約 1,600 ユーロからとなっている。EU 以外の国・地域出身の学生は、オランダ及び EU 加盟国出身の学生に比べ授業料が高いことが多く、またオランダ及び EU 加盟国出身の学生でも 31 歳以上であれば授業料は高くなる。

9-2) 学生に対する財政支援

オランダ教育・文化・科学省は高等教育へのアクセシビリティ(参加機会可能性)を保証しており、学生に対する経済的援助について責任を負っている。オランダの政府系機関で、DUOの略称で知られるDienst Uitvoering Onderwijs(教育・文化・科学省教育行政機構)は同国の学生の財政支援に関わる組織で、学生財政援助法(WSF 2000年)の定めに基づき、研究大学又は高等職業教育機関に在籍するオランダ人学生は基本的に所定の条件の下でDUOを通じてオランダ政府による経済的援助を受ける資格を持つ(DUOは2010年1月1日に設立された組織で、前身はInformatie Beeheer Groep: IB-Groep)。

学生に対する奨学金の月額、保護者と同居しているか否かによって異なる。「基礎奨学金」(Basic grant)は全ての学生に支給されるが、「追加奨学金」(Supplementary grant)は保護者の収入状況に応じて変わる。学生に対する奨学金は入学時に30歳未満で、フルタイムの教育プログラムを履修しているか、複数の学位を取得するコースをとっている学生を対象に支給される。またオランダ人以外であっても、特定の種類

の移住許可証を持っている学生であれば奨学金を受ける資格がある。

EU/EEA加盟国*の出身で、学生向け奨学金の受給資格を満たしていない学生は、授業料をカバーする学生ローンを申し込むことができる。なお、このローンは卒業後に返済しなければならない。奨学金を受け取っているオランダ人学生であっても、これらのローンを申請することは可能である。

* EU/EEA加盟国：ベルギー、ブルガリア、キプロス、チェコ共和国、ドイツ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、ノルウェー、オーストリア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、スペイン、スウェーデン、英国

学生向け奨学金の受給資格

研究大学又は高等職業教育機関に在籍する学生が政府による教育財政支援を受ける資格を得るには、次の3つの条件を満たす必要がある。

- 支援を申請した時点及び初めてその受給資格を得た時点で30歳未満である。
- 高等教育機関（研究大学又は高等職業教育機関）の正規課程又は労働学習課程（学生の就労を認める教育プログラム）を履修している。
- オランダ国籍を有する。

成績連動型奨学金

研究大学又は高等職業教育機関の学生に支給されるのは、いわゆる成績連動型の奨学金

（Performance-based grant）である。成績連動型とは、初めに貸付金の形で受け取り、10年以内に学位等の資格を取得できれば返済は免除されるが、期限までに取得できなかった場合は返済しなければならないというものである。このタイプの奨学金には基礎奨学金、追加奨学金、旅費・交通費助成金の3つがある。

学生財政支援の種類

学生に対する財政支援は以下の5種類から構成される。

1. 基礎奨学金（成績連動型）
2. 追加奨学金（成績連動型）
3. 旅費・交通費助成金（成績連動型）
4. 貸付金
5. 授業料ローン（研究大学又は高等職業教育機関の学生のみを対象）

1. 基礎奨学金（Basic grant）

政府による財政支援を受ける資格を持つ学生には全員、基礎奨学金が支給される。これは成績連動型奨学金のひとつである。下宿生に対する受給額は保護者と同居している学生よりも高い。また子供を扶養している学生は追加額を受けることができる。

2. 追加奨学金（Supplementary grant）

学生は基礎奨学金に加えて追加的な奨学金も申請することができる。追加奨学金も成績連動型奨学金の一種である。受給額は保護者の収入状況に応じて異なる。

3. 旅費・交通費助成金 (Student travel product)

旅費・交通費助成金も学生財政援助の一部であり、学生は財政援助の資格を有する期間を通じて、これを受ける資格がある。旅費・交通費助成金制度を使うと、電車、バス、地下鉄、路面電車が無料又は割引料金で利用できる。学生は平日又は週末に有効のシーズンパスのどちらかを選ぶことができる。旅費・交通費助成金も基本的に成績連動型の奨学金である。

4. 貸付金 (Loans)

学生はDUOに対して貸付金を申請することもできる。借り入れは最大限度額でもそれ以下でも可能であるが、借入額を決める際には貸付金は成績とは無関係であり、学業が終了した時点で返済しなければならないことを念頭に置いておく必要がある。貸付金については金利を支払う必要があり、2010年の貸付金利は年率2.39%である。

成績連動型助成金の受給資格を失っても、継続してフルタイムの教育課程を履修している学生は、引き続き3年間の借り入れを受けることができる。この期間は「貸付期間」と呼ばれ、期間中は月当たり最高853.16ユーロ（2010年）の借り入れが認められる。

5. 授業料ローン (Tuition fees loan)

通常の貸付金に加え、研究大学又は高等職業教育機関の学生は授業料を支払うための貸付金を申請することができる。この貸付金は授業料ローンと呼ばれ、学生対象の財政援助の一環として利用できるものである。学生は成績連動型奨学金又は通常の貸付金を申請する場合、同時に授業料ローンを申請することができる。原則として、ローンの返済期間は15年間である。授業料ローンは月返済で、金額は負債総額を180か月（15年間）で割って算出するが、最低額は月当たり45.41ユーロとなっている。また、所定の金額での返済が困難である場合、毎月の返済の減額を申請することができる。この場合、DUOは申請者の2年前の収入をベースに返済額を算定する。

学生財政支援の額

下表は学生が受け取ることのできる奨学金・貸与金の額を示したものである（表中の額は最高額）。

学生財政支援の平均月額（2010年）

種類	保護者と同居している学生	保護者と同居していない学生
基礎奨学金	95.61	266.23
追加奨学金	220.08	240.00
貸付金	288.46	288.46
授業料ローン（教育機関が定める授業料）	137.17	137.17

（単位：ユーロ）

追加収入限度

2010年現在、DUOを通じて政府より給付される財政支援に加えて、労働などにより学生が得ることのできる追加的収入の年間限度額は13,215.83ユーロである。貸付金を全く利用していない学生であっても、その他の財政援助のスキームは利用しているため、この追加収入限度の適用対象となる。この限度額は、学生の総収入あるいは課税対象賃金との関係において定められている。

国外で学ぶオランダ人学生のための財政支援

国外で学ぶオランダ人学生を対象とした助成金制度も2007年より導入されている。これはオランダの研究大学又は高等職業教育機関に在籍しながら一定期間を国外の教育機関で学ぶ学生だけでなく、オランダの研究大学又は高等職業教育機関に在籍せず、初めから国外で学位取得のためのプログラムを履修している学生にも適用されるものである。なお、国外で学ぶオランダ人学生に対する助成金の支給条件として、前述した助成金受給条件のほかに3つの追加的条件が定められている。

- 3年間のオランダ滞在：国外の教育プログラムを履修する前の6年間のうち、最低3年間はオランダに滞在していること。
- 重複受給の禁止：学生はオランダ政府による学生財政支援又は留学先の国が提供する助成金のいずれか1つを選択すること。両方を受け取ることはできない。
- 留学先の学位プログラムの質：留学先で履修する教育プログラムは、一定の水準を満たすものであること。これについては、Nuffic（オランダ高等教育国際協力機構）がDUOに代わり、留学先の学位プログラムがオランダの高等教育に求められる質的要件と同等の水準を満たしているかを審査する。

オランダ人以外の学生に対する財政支援

政府財政支援の受給資格のひとつにオランダ国籍の保有があるが、所定の条件を満たした場合は、オランダ国籍を持たない学生であっても財政支援の資格を得ることができる。詳細はDUOウェブサイトを参照：
http://www.ib-groep.nl/International_visitors/ [英語]

9-3) 外国人学生対象の奨学金プログラム

Nuffic のコーディネートによる奨学金プログラム

ハウヘンス奨学金プログラム：<http://www.nuffic.nl/hsp> [英語・オランダ語]

オランダ政府によるハウヘンスプログラムは、学士課程の最終段階又は修士課程をオランダの大学で学ぶことを希望する全世界の学生を対象とした奨学金プログラムである（ただし博士課程については一部の国に限定）。

エラスムス・ムンドゥス：

http://ec.europa.eu/education/external-relation-programmes/doc72_en.htm

[英語・ドイツ語・フランス語]

エラスムス・ムンドゥスはEUの欧州委員会によるプログラムである。奨学金制度を通じて高等教育の質を高めると同時に、欧州諸国とそれ以外の国々との学術的な協力関係を深めることを目的としている。同プログラムは教育機関に対する財政支援のほか、個人を対象とした奨学金も提供している。資金援助は以下の3つのアクションに対して提供される。

- アクション1：欧州における共同教育プログラム
- アクション2：欧州以外の国の高等教育機関との提携及び学生・教員に対する奨学金プログラム
- アクション3：欧州の高等教育を世界的に普及・発展させるプロジェクト

エラスムス・ムンドゥスの共同教育プログラムは、エラスムス・ムンドゥス修士課程（EMMCs）とエラスムス・ムンドゥス共同博士課程（EMJDs）で構成される。欧州委員会は優秀な学生及び研究者に対し学費全額をカバーする奨学金を提供するほか、EMMCsで教鞭をとっている教員に対しても奨学金を

授与する。

Tempusプログラム：<http://www.ec.europa.eu/tempus> [英語・ドイツ語・フランス語]

Tempus プログラムは、東欧や中央アジア、西バルカン、地中海周辺と幅広い地域の国々が自国の大学と欧州連合の高等教育機関との間で提携関係を構築するのを助け、それぞれの国における高等教育制度の再編を支援する役割を果たしている。

オランダ・フェローシップ・プログラム：<http://www.nuffic.nl/nfp> [英語]

オランダ・フェローシップ・プログラム（NFP）は需要主導型のフェローシップ・プログラムで、57の開発途上国の中堅職員を対象に、研修・教育プログラムを通じてそれぞれが所属する組織における能力向上を促すことを目的としたものである。NFP はオランダ外務省開発協力予算から資金を得ている。Nuffic がとりまとめるこうした奨学金プログラムのほかにも、オランダの高等教育機関の多くが独自の奨学金制度を整備している。これらの奨学金は、特定の教育機関において、特定の学問分野又は学位プログラムと結びついて支給されるものが多い。学生は自身が専攻する学問分野において利用できる奨学金を調べてみるとよいだろう。

◇ 参考資料

- オランダ大使館又は領事館：<http://www.mfa.nl/> [英語・オランダ語]
- 所属する教育機関の国際オフィス
- Nuffic Neso Office（Nuffic海外事務局）：<http://www.nuffic.nl/neso> [英語]に記載されているリストの各事務局に相談
- 留学を志望するオランダ国内の高等教育機関：各機関の奨学金について情報を提供
- 奨学金情報ウェブサイトGrantfinder：<http://www.grantfinder.nl/> [英語]

出典：

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Nuffic: Most people come for the tulips, Life and Study 2009/2010.

Centre for Higher Education Policy Studies (CHEPS) (2007): Higher Education in the Netherlands: Country report.

VSNU website: <http://www.vsnu.nl/Home-english.htm>

DUO (Dienst Uitvoering Onderwijs) (2009): Everything about student finance for students and graduates: http://www.ib-groep.nl/Internationa_visitors/

European Commission Education & Training website: <http://ec.europa.eu/education/>

European Commission (2010): Erasmus Mundus: International Quality Assurance - the Erasmus Mundus Experience (NIAD-UE Seminar presentation material), 17th June 2010, Tokyo, Japan).

10. 高等教育関係法令

- 高等教育・研究法（WHW）1993年制定（2002年改正）
- 成人・職業教育法（WEB）1996年制定
- 学生財政支援法（WSF）2000年制定

11. オランダの高等教育に関する最近の動き

健全な知識型社会の基盤は十分な教育を受けた労働者層によって担われるものである。将来の社会の繁栄と平安を願うならば、できる限り多くの方がより高いレベルの知識を身に付けて働けるようであればならない。しかしながらオランダでは様々な分野において、十分な教育や職業訓練を受けた人材が足りないという議論がなされてきた。同国では、高等教育を受けている人の割合は高まりつつあるものの、労働市場の需要に応えるには、より多くの学生が研究大学や高等職業教育機関に進学する必要があるとの指摘がなされている。このほか、例えば経済協力開発機構（OECD）が指摘するように、低い社会的・経済的環境のもとで育った子どもがオランダの教育制度の中でより高いレベルの教育機関に進学する機会が少ないことが問題となっている。また、オランダは、大学の中退率（drop-out rates）が周辺諸国と比較して高く、大学進学者の約30～40%が最終的にディプロマを取得せずに退学していることも問題となっており、中退率を減少させ高等教育人口の割合を増やすことが今後の課題である。

高等教育における戦略的アジェンダ

オランダの高等教育及び学術と関わる多くの方が、同国の高等教育の質を高めることに精力的に取り組んでいる。オランダ政府は、研究大学や高等職業教育機関、そして学生らと緊密な協議を重ねた上で、2007年に高等教育・研究・科学に関する政策の戦略的アジェンダを策定、公表した。同計画は意欲的な学習文化や優れた研究環境を構想し、これらを通じて学生や研究者にとってより良い教育を実現することを目指すものである。政府が掲げる高等教育アジェンダの概要は次の通りである。

- **学位取得率の改善**

オランダ政府は、学士課程段階での中退率を大幅に減らそうと試みている。ターゲットは、別のコースに編入するために辞める学生ではなく、高等教育機関を中退しそのまま学習の場に戻らない学生の割合である。中退率に関する中間評価が2011年に実施される予定で、中退者を現在より30%減らすことが目標である。さらに、移民の学生の学位取得率を引き上げることも課題である。

- **教育・研究の質的向上と卓越性の追求**

教育・研究の基本的な質は維持しなければならないが、それを超えてさらなる卓越性を自ら追求するよう政府は研究大学及び高等職業教育機関に働きかけていくこととしている。また、より多くの学生が基礎プログラムレベル以上の学習に取り組む必要がある。この点に関しては、教育の差別化（能力別教育）とインテンシブな教授指導が非常に重要となる。このような教育の質の改善にむけた取組においては、指導にあたる教員の資質・能力のレベルが重要なポイントとなる。

- **教育、研究、労働市場の連携**

大学等における教育と研究、そして労働市場との間で適切な連携協力を図ることで、教育や専門職業教育の質を高めることが期待されている。

出典：

Dutch Ministry of Education, Culture and Science (2008): Strategic Agenda for Higher Education, Research and Science Policy.

Studentnews.eu website: <http://tertiary-education.studentnews.eu/>

Ⅲ. 質保証制度

1. オランダの質保証制度の概要

オランダは高等教育の質が高いことで世界的に評価を受けているが、このような評価は国内の高等教育規制システムや質保証制度によって実現している。オランダの大学の質保証制度には大きく分けて研究活動及び学位プログラムに関する質保証があり、それぞれ研究評価とアクレディテーションによってその質が監視されている。

研究評価

オランダでは多くの研究大学が、公費による研究を対象とした国内の評価制度を利用している。学術研究の評価方法は2003年に大きく変化した。それまでの研究評価は5年に1度、学問分野ごとに全国で実施され、オランダ大学協会（VSNU）がこれを取りまとめることによって行われていた。一方、新制度のもとでは、研究評価の責任は教育機関自身が負うこととなった。つまり、学内で行われる全ての研究に対して、各大学の理事会が自主的に評価を実施することになったのである。

新しい研究評価制度では、公費を受ける全ての研究を対象に6年に1度評価が行われる。一方、3年に1度は外部評価と入れ替わる形で、各機関が組織内部による中間評価として各研究に関する自己評価を実施する。この評価制度の目的は以下の3点である。

- 研究の質の改善・向上
- 研究管理体制の改善・向上
- 研究機関や資金拠出機関の幹部、政府、社会一般に対するアカウンタビリティ

アクレディテーション

オランダの大学の全ての学位プログラムは、機関内部の質管理及び第三者による周期的な質アセスメントを受けることとなっている。これは高等教育・アクレディテーション法（Higher Education and Accreditation Act）により規定されているもので、研究大学及び高等職業教育機関が提供するあらゆる学位プログラムは所定の基準に沿って評価を受けることが義務付けられている。第三者による質保証に関する現行の制度は、2002年から2003年にかけてオランダの大学で学士、修士の学位制度が導入されたのに合わせて始まった。交付金を受ける資格の保持、認定された資格を授与する権利の確保、また学生に対する財政支援を行うためには、全ての学位プログラムは、オランダ及びベルギーのフランダース地方の高等教育機関の質保証を担うアクレディテーション機関であるオランダ・フランダースアクレディテーション機構（NVAO）のアクレディテーションを受け、認定されなければならない。認定を受けた教育プログラムは、公的に認可されたプログラムとして、オランダ政府認定高等教育プログラム登録（CROHO）のリスト（フランダース地方の場合は、高等教育登録というリスト）に掲載される。教育や労働市場の国際化が進展する今日、アクレディテーションは高等教育の質保証を裏付けるものとして重要な役割を果たしている。

オランダ及びフランダース地方のアクレディテーションは、2段構造となっている。まず、アセスメント自体を実施する評価機関としてNVAOにより認定を受けた外部の質評価機関が6年周期で評価を行う。受審対象の学位プログラムが自己評価書を作成・提出した後、質評価機関の評価パネルがこれを検討し、訪問調査を行い、その結果を評価報告書にまとめる。次に、この報告書に基づいてNVAOがアクレディテーションを行う。アクレディテーションでは、透明性が高く体系的で信頼できる評価が行えるよう、国内外の比較

基準を踏まえたプロトコルが定められている。プロトコルを遵守していない場合や、プロトコルが定める基準を満たしておらず、アクレディテーション結果が不適格となるような場合、当該の教育プログラムは前述した事柄（政府によるプログラム認可や交付金、奨学金や融資等の学生財政支援）に影響が出ることがある。なお、オランダをはじめとする欧州各国では国境を越えた高等教育の提供、学生や教員の移動が活発に行われているところであるが、ポーランド・プロセスの枠組みの中で各国のアクレディテーション結果を相互に認証できるようにするための取組が現在続けられているところである。

出典：

Nuffic: Higher Education in the Netherlands

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

VSNU website: <http://www.vsnul.nl/Home-english.htm>

State University of Groningen website: <http://www.rug.nl/corporate/index>

Radboud University Nijmegen (2009): Radboud University Nijmegen: ECTS Information Guide 2009-2010.

Delft University of Technology website: <http://home.tudelft.nl/en/>

2. オランダ高等教育における質保証の歴史

オランダの教育政策は 1980 年代前半以降、教育における基準の設定やその引き上げに関して、各教育機関自身により多くの責任を与える方向で発展してきた。

高等教育セクターでは、教育機関による内部評価に加え、第三者機関による外部質評価も行われてきた。オランダの大学は 1990 年代以降、オランダ大学協会（VSNU）によるアセスメントという形で授業の質に関する外部チェックを受けてきた。国内の大学が提供する全教育プログラムを対象に、5 年に 1 度、VSNU が設置する専門家委員会による詳しい調査が行われ、委員会は当該教育プログラムの質のアセスメントを行い報告書の形で結果を公表した。2002 年に学士、修士制度が導入された際、この外部質評価のあり方にも変更が加えられた。

現在は、教育プログラムを対象としたアクレディテーションがオランダの大学の質評価制度として機能している。アクレディテーションの実施機関として NVAO が特別に設置され、教育プログラムの適格性を認定する役割を担っている。オランダのアクレディテーションでは、外部の質評価機関がアセスメントを実施し提出するデータを元に、NVAO が当該教育プログラムのアクレディテーション認定の可否を判断している（周期評価）。新規プログラムを対象とするアクレディテーション（初期アクレディテーション）の場合は NVAO がアセスメント及び認定の両方を行う。

1980 年以前

- 体系的な質保証制度は不在
- 法的措置及び大学内部規則を通じた政府による規制

1980 年代

- 学生数の増加、予算削減に伴う効率化への関心の高まり、機関内部規制に対する信頼の低下
- フランス、英国、オランダは外部質保証において主導的役割を担う（欧州質ネットワーク）
- 1985 年：全ての学位プログラムに対しピア・レビューを実施することでオランダの大学が合意

1990年代

- 1993年：高等教育・研究法（WHW）制定
- 1988年以降：VSNU（オランダ大学協会）による監督の下、大学の授業の質評価という形での外部質保証システムが確立
- VSNUがピア・レビューを行う同業者を選定
- 教育の質向上という観点から、全ての教育プログラムは6年ごとにピア・レビューを受け、評価報告書を公表することが決定
- VSNUの報告書で質に関する改善点が指摘された場合、モニタリングを実施
- 1999年：ボローニャ宣言

2002～2010年

- 2002年：高等教育・研究法改正
- 2002年：学士、修士、博士からなる学位制度の導入
- 2002年：高等教育・アクレディテーション法制定
- 2002年及び2005年：2002年にNAO（オランダアクレディテーション機構）、2003年にNVAO（オランダ・フランダースアクレディテーション機構）が設立（NVAOは正式にはオランダ及びベルギー・フランダース地方の両政府が設置のための国際協定に署名した2005年に設立）
- 2003年：NVAOによるプログラムアクレディテーション（第1サイクル）の開始
- 2003年：研究評価に関する新制度の導入

2011年以降（予定）

- 第2サイクルのアクレディテーション新制度導入へー
 - NVAOによる機関別オーディット（Institutional audit）の実施。受審対象となる高等教育機関の内部質保証制度の監査、評価
 - プログラム別アクレディテーションの実施。ピアによる「目標」（学生が身に付けるべき学習成果）と「内容・結果」（学生が達成した学習成果）の評価に重点。機関別オーディットで適格判定を受けた機関は限定的プログラム別アセスメント（Limited programme assessment）を、不適格判定を受けた機関は包括的プログラム別アセスメント（Comprehensive programme assessment）を受審

出典：

Karl Dittrich (NVAO): Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

European Commission: Eurybase - Organisation of the Education System in the Netherlands 2008/09.

http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/eurybase/eurybase_full_reports/NL_EN.pdf

VSNU: Quality assurance and accreditation in the Netherlands.

NVAO (2009): 2nd Phase of Accreditation - the Netherlands and Flanders.

State University of Groningen (2005): Integrated Quality Assurance for Education at the State University of Groningen.

3. 質保証制度の種類

3-1) 内部質保証

高等教育機関は、教育の質そのものに加え、その質を保証するための制度に対して自ら責任を負っている。機関内部の質を保証する制度を支えるものとしては、以下の5つの要素が考えられる。

- 各教育プログラムの明確な目標
- 策定された目標の達成状況を調べるモニタリング制度。例えば、学生の学業面における達成度や学位取得率、中退者数等の記録をとるための適切で機能的なシステムなど
- プログラムに関わる教職員による内部評価
- 学生によるコース評価
- 卒業生調査・雇用者調査

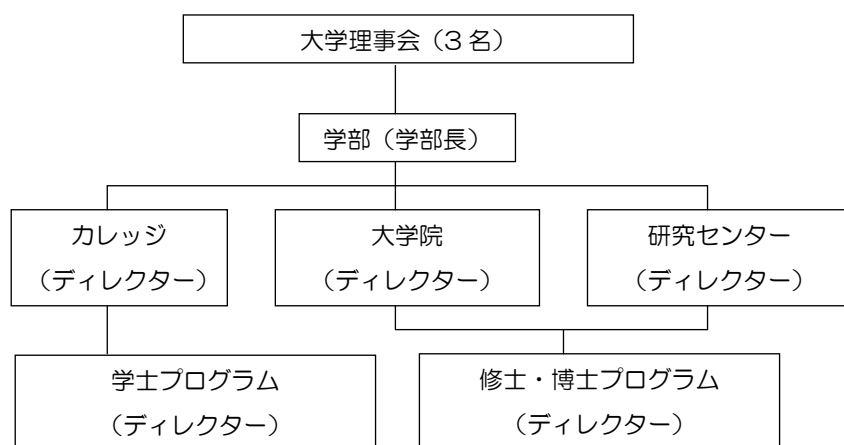
内部評価では、特に以下の点を中心とした調査が行われることが多い。

- 授業
- 卒業要件
- 教育内容
- 教育プロセス
- 学位取得率
- 地域社会への貢献
- 機関ポリシー

なお研究活動は、これとは別の質保証制度のもとで評価されることとなっている（後述の「研究評価」の項を参照）。内部評価の手段としては主に自己評価が用いられており、自己評価は各研究大学及び高等職業教育機関の理事会の責任のもとに実施される。

研究大学における内部質保証の例（アムステルダム大学）

◇ 内部質保証に関する学内組織体制



◇ 内部質保証に関与するその他の関係者

- 学生
 - 書面又は口頭によるコース評価
 - 学士・修士学生調査
 - 教育課程委員会
 - 学生自治会（学部レベル・機関レベル）
 - 学生協会
- 教職員
 - 教育課程担当ディレクター
 - 口頭によるコース評価
 - 教育課程委員会*
 - 試験委員会
 - 教職員協議会
- 学外関係者
 - 卒業生
 - 専門家

* 教育課程委員会は学生 50%、教員 50%で構成され、教育と関わるあらゆる活動（コース、インターンシップ、設備の整備、学生へのカウンセリング等）の質を評価する。

出典：

European Commission: Eurybase - Organisation of the Education System in the Netherlands 2008/09.
http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice/documents/eurybase/eurybase_full_reports/NL_EN.pdf
University of Amsterdam (2010): Quality Assurance at the University of Amsterdam.

3-2) 外部質保証

3-2-1) 研究評価

オランダの研究大学に所属する研究機関及び研究グループは、6年に1度その質に関して体系的な評価を受ける。評価は、各大学が任命する独立の国際的なピア・レビュー委員会により実施される。当委員会は研究機関に対する全体的な評価の後、研究グループの質、生産性、実現性、妥当性を評価する。この評価プロセスには博士課程も含まれる。この外部評価に加え、3年に1度は当該教育機関による内部評価も行われる。

現行の研究評価制度は、1990年代から続けられている。2003年まではVSNU（オランダ大学協会）が学問分野レベルで全国的な評価をとりまとめる役割を担っていたが、2003年以降は各大学が標準的評価プロトコル（SEP）に基づいて研究評価を行っている。公的資金を受ける研究に関して責任を負うVSNU、NWO（オランダ科学研究機構）、KNAW（オランダ王立芸術科学アカデミー）の主要3団体によって策定された本プロトコルは、研究機関や研究グループの国際的な地位を重視している。また、プロトコルは独立した専門委員会による定期的な見直しが行われている。

研究に関する外部評価は、研究機関全体と、各研究プログラムの2つのレベルで行われる。研究機関と研究プログラムにおける主な役割として、学術界及び社会にとって意義のある研究成果を出すこと、博士課程の学生に対する指導を軸とした評価の2つがある。

研究評価の目的

標準的評価プロトコル（SEP）は専門家の評価に基づく、研究及び研究方針の評価・改善にむけた共通のガイドラインである。本プロトコルの主な目的は以下の2点である。

- 学外のピア・レビューに基づく研究の質の改善。レビューでは研究、研究方針、研究管理の学術的・社会的意義に関する検討が行われる。
- 当該研究機関の理事会、資金拠出機関、政府、社会全体に対するアカウンタビリティ

評価基準

評価に用いられる主な基準は以下の通りである。

- 質（国際社会における学術的評価や博士課程履修者に対する指導の評価の高さなど）
- 生産性（評価とアウトプットの関係）
- 社会的意義（学術的・社会経済的な影響力）
- 活動力と実行可能性（環境の重要な変化に適切に対応できる能力）

評価のプロセス

1. 全体的な評価計画
2. 計画書の提出
3. 学外の評価委員会の選出と編成
4. 自己評価
5. 訪問調査と評価報告書
6. フォローアップ

出典：

VSNU, KNAW and NWO (2009): Standard Evaluation Protocol 2009-2015, Protocol for Research Assessment in the Netherlands.

VSNU website: <http://www.vsnunl/Home-english.htm>

KNAW website: <http://www.knawnl/english/>

3-2-2) アクレディテーション

1990年代以降、オランダの大学の教育プログラムは質評価という形で5年に1度、VSNU（オランダ大学協会）が設置した委員会による質の点検を受けてきた。これは当委員会が教育プログラムの質を評価し、報告書という形で評価の結果を提示し公表するというものであった。しかし、2002年に学士、修士制度が導入された結果、オランダ国内の質保証はこうした質評価主体の制度からアクレディテーションを中心とした制度に変わり、アクレディテーションを専門に行う機関としてNVAO（オランダ・フランダースアクレディテーション機構）が設置された。

高等教育のアクレディテーション制度は一般に、教育プログラムが高い水準にあることを保証することを主な目的としており、オランダのみならず、他の欧州諸国の多くでも、教育の質を担保するための外部質保証制度として重要な位置を占めている。アクレディテーションとは、質保証を行う組織として適切な形で認証を受けた機関が、高等教育機関又は教育プログラムが所定の基準に適合しているかどうかについて、個々に正式な決定を下すことと定義できる。なお、ECA（欧州高等教育アクレディテーション協会）はアクレディテーションを「高等教育機関及び（又は）教育プログラムが所定の基準を満たしていることを示す、独立した正式の決定」と定義している。

アクレディテーションは複数の手順を踏んで行われる。

1. 受審者による自己評価、必要書類の提出
2. 外部の専門家による第三者評価
3. アクレディテーションの可否の決定

アクレディテーションの判断は、外部評価に基づいて決定する。判定の種類は、「(条件付き又は無条件の)可」(Yes) あるいは有効性が限定される「不可」(No) のどちらかである。

オランダでは、2002年制定の高等教育・アクレディテーション法により、研究大学及び高等職業教育機関で提供される全ての学位プログラムは、特定の基準に基づく評価を受けなければならないこととなっており、この基準を満たしている学位プログラムは適格であると認定される。NVAOによるアクレディテーションを経た学位プログラムは、オランダ政府の認定高等教育プログラム登録(CROHO)のリストに掲載され、学生は認定を受けた学位プログラムを修了しなければ正式な学位を取得することができない。

オランダにおける現行のアクレディテーション制度は、1) 初期アクレディテーション(新規の教育プログラムで、正式な学士号又は修士号の授与を求めるものに対する評価)と2) アクレディテーション(周期評価: 既に認定されている全ての学士課程及び修士課程に対する評価)から構成される。特に公立の高等教育機関の場合、アクレディテーションを受けた教育プログラムでなければ、正式な学士号や修士号を授与したり政府からの交付金を受けることができないほか、学生が奨学金や貸付金の受給資格を得ることができない。以下、NVAOによる周期的アクレディテーション制度の概要を説明する(NVAOによる初期アクレディテーションについては、50ページを参照)。

2 段構造のアクレディテーション制度

オランダ及びベルギー・フランダース地方では、新規プログラムに対する評価及びアクレディテーションはどちらもNVAO自身によって行われる(初期アクレディテーション)。

一方、既存の教育プログラムを対象としたプログラム別アクレディテーション(周期評価)は2段構造となっており、外部の質評価機関(VBI)とNVAOがこれを分担する。VBIとは、正式な質評価機関としてNVAOに認定された団体を指し、オランダに7つ、フランダース地方に2つある。VBIは教育機関による厳格な自己評価と個々の教育プログラムに対する内部評価をベースとしながら外部評価を実施し、評価報告書を作成する(訪問調査は少なくとも4名のメンバーからなる専門家チームで行い、うち1名は必ず学生を含む)。NVAOは、質評価機関が提示したデータを元に、当該の教育プログラムを適格と認定すべきか評価し、判定を下す(アクレディテーション)。質評価機関が1つ以上のアクレディテーション基準に関して否定的な判断を行った場合、NVAOによるアクレディテーションでは不可の判定が下される。この場合、当該教育プログラムの存続に直接的な影響が及ぶことになる。一方、質保証機関による報告書の中での評価結果が肯定的なものであっても、アクレディテーション結果を独立して決定する法的な義務はNVAOが有する。したがって、質評価機関による評価が実施された後に、NVAOあるいはNVAOが設置した検証委員会によって追評価が行われ、特定の基準に照らして当該プログラムが再審査されるケースもある。また別の場合には、質評価機関による評価報告書がNVAOの規定するアクレディテーション規則(評価パネルの構成、評価報告書の記述方法等)に準じていないという理由からNVAOに却下されることもある。

オランダでは政府の方針により、各質評価機関は自由市場の下で活動している。NVAOは年に1度、法的な義務として、NVAOが定めた要件を満たす評価報告書を作成する能力がある質評価機関のリストを作成

する。質評価機関がこのリストに記載されるためには、年に1度、NVAOに関連書類を提出し「質評価機関プロトコル」が定める要件をどの程度満たしているか説明しなければならない。その大前提として、質評価機関は独立した組織であること、質の高い評価パネルを有すること、評価受審プログラムの質の状況について、NVAOがアクレディテーションにおいて中立的な判断を下せるだけの的確な情報を評価報告書で提供する力があることを示さなければならない。

さらに、質評価機関はNVAOが導入した制度に従い、2年に1度監査を受ける。監査は無作為に選んだ申請書を検証する形で実施され、質評価機関の組織的な側面が問われる。

NVAOの認定を受けた質評価機関（VBI）（オランダに拠点を置くもの、一部はドイツに拠点）

- QANU：オランダ大学質保証機構
- Certiked VBI bv：ロイド・レジスター・オランダ
- EAPAA：欧州行政アクレディテーション協会
- Hobéon：オランダ職業教育・専門職教育認証機構
- NQA：オランダ質機構
- ASIIN：工学・情報学・自然科学学位プログラムアクレディテーション機構
（ドイツに拠点を置くNVAO認定質評価機関）
- FIBAA：国際ビジネス管理アクレディテーション基金（ドイツに拠点を置くNVAO認定質評価機関）

NVAOが認定する質評価機関（VBI）（ベルギー・フランダース地方に拠点を置くもの）

- VLIR：フランダース大学協議会
- VLHORA：フランダース高等職業教育協議会

質評価機関の評価に対するアプローチは、それぞれの前身母体によって異なる。NQAとQANU（NQAの前身は高等職業教育機関の、QANUの前身は研究大学の統轄団体）は教育プログラムの内容を重視したピア・レビュー方式の質評価を行う。一方、HobéonとCertiked（前身は資格授与機関又はコンサルタント機関）はプロセス中心の評価である。各教育機関は、それぞれの教育プログラムのビジョンに最も適した評価方法を採用している質評価機関を選ぶことができる。一方、NVAOは質評価機関の評価アプローチの違いに関わらず、質評価機関の意思決定プロセスにおいて、評価を受ける教育プログラムの内容や達成された学習成果に十分な関心が払われているかどうかを確認したうえでアクレディテーションの判定を行う。

評価サイクル

アクレディテーションのサイクルは、以下の通りである。

1. 現在のアクレディテーション資格が失効する36か月前に、評価を受ける機関は質評価機関（VBI）を選択、どのような形で評価を行うかに関して正式な契約を結ぶ。
2. その後の12か月間で評価対象となる学科が自己評価を実施、自己評価報告書に結果をまとめる。この間VBIは適切な専門知識を持った評価委員会を任命する。
3. 評価委員会は内部評価と当該学科への訪問調査を元に評価を行い、当該機関と学科に関する評価結果を報告書にまとめる。
4. 当該教育プログラムを提供している教育機関は、アクレディテーション資格が失効する少なくとも1年前に再認定の申請書に添えてこの報告書を提出する。
5. 資格の失効前にNVAOはVBIによる評価結果を承認し再認定を行うかについて判断する。

教育プログラムの評価

質評価機関が最終的に肯定的な判断を下すためには、全ての観点において良好という評価がなされなければならない。評価の枠組み内にある各観点について肯定的な判定がなければ、NVAOによるアクレディテーションの段階で「可」という判定を下すことはできない。評価の枠組みの観点ごとに個別の基準が定められており、評価はこれに基づいて行われる。評価報告書では、異なる基準に基づく個々の評価から最終的にどのようにして結論に導いたのかを明らかにしなければならない。言い換えれば、評価パネルは各観点の評価がそれぞれの基本となる基準の評価にどう根ざしているのかを明確にしなければならない。

NVAOは認定の可否を決定するにあたり、パネルによる評価結果やその結果に関する分析、あるいは認定枠組みに基づいた教育プログラムの評価を根拠として、どのように決定を下したのかを明示する必要がある。教育プログラムの適格性を認定するためには、評価の段階で、各学習形態（フルタイム、パートタイムあるいは実習型）における教育の質が確保されていることを基準に基づいて示さなければならない。

なお、アクレディテーション対象の教育プログラムが、政府認定高等教育プログラム登録（CROHO）においては1つの教育プログラムとして登録されているが実際は複数の場所で提供されている場合、それぞれの地域におけるプログラムへの評価を通じて所定の質基準を満たしていることが証明されない限り、アクレディテーション認定は与えられない。

学習成果の重視

1990年代初頭からオランダ及びベルギー・フランダース地方の教育は、学生が身に付けた能力（コンピテンシー）を重視する教育システムへと発展し、教育の焦点は教えるプロセスから学生が学ぶプロセスへと移行していった。このような変化が生じる以前は、教育のプロセスはインプットが中心で、教育は学習量や学習期間の長さ（時間数、学期数、年数など）で表わされるものだった。

一方、コンピテンシーを重視する教育システムでは、教育のプロセスはアウトプットが中心となり、学習者が獲得した能力によって表現される。その結果高等教育において授与される学位は、単に教育プログラムの履修や修了を意味するものではなく、そのプログラムが定める学習成果を達成したことを証明するものへと変化した。

したがって、学生のアウトプットを重視するNVAOのアクレディテーションにおいて、学習成果は最も重要なポイントである。欧州高等教育圏の包括的な学位・資格の枠組みでは、通称「ダブリン・ディスクリプター」（Dublin descriptors）*というものが、様々なレベルの教育プログラムにおいて求められる一般的な学習成果について定義している。この資格記述は、ある教育プログラムが学士レベルかあるいは修士レベルか、というように課程のレベルを特定する上で極めて重要である。また、ダブリン・ディスクリプターでは学問分野別の学習成果も定義されている。これらは例えば工学や社会福祉など、教育プログラムのテーマを特定するためにも非常に重要なものとなっている。

NVAOのアクレディテーションにおいて、学習成果は3つのレベルで認識されている。

1. 「学生が身に付けるべき学習成果」（Intended learning outcomes）

教育プログラムには、学生が身に付けるべき学習成果を明確に定義することが求められる。これは、卒業生が学業を通じて獲得すべきコンピテンシーを示すものである。評価パネルはまず、教育プログラムにおいて意図されるこうした学習成果が要求されるレベルに見合っているか、また当該課程のテーマに沿っているかどうかを判断する。レベルについては、これらの学習成果を「ダブリン・ディスクリプター」に照らし合わ

せて判断する。さらに、同じテーマを持つ教育プログラムに対して国内（あるいは国際）社会一般が期待する成果と当該教育プログラムが意図する成果とが合致しているか判断する。

2. 「潜在的な学習成果」(Potential learning outcomes)

第2段階では、潜在的な学習成果についての判断が行われる。これは、学生がその教育プログラムを履修することで獲得し得るコンピテンシーを示しており、基本的にはカリキュラムの内容を学生が身に付けるべき学習成果と一致させることで実現するものといえる。例えばあるプログラムにおいて、学生が身に付けるべき学習成果として「実験スキル」があげられていた場合、当該課程のカリキュラムには間違いなく実験を取り入れ、学生に実験を行う機会を与えるべきである。そうでなければ、当然のことながらカリキュラムの内容と学生が身に付けるべき学習成果が一致していないということになる。

学習成果に関しては、設備や職員の数・質といった要素も学習成果の達成に寄与するため、こうした点についても追加的に評価を実施する。

3. 「学生が達成した学習成果」(Achieved learning outcomes)

第3段階では、学生が達成した学習成果について評価が行われる。これは、卒業生が学業を通じて実際に獲得したコンピテンシーを意味する。評価パネルは達成された学習成果について判断ができるよう、学生の提出物（エッセイや学期末論文、学位論文等）を読んだ上で、そこに示される学習成果と求められる学習成果とを照らし合わせる。ここでいう要求される学習成果とはレベルごとに定められているものであり、その課程において学生が身に付けるべきものとして評価パネルも認めた学習成果を指す。

さらにNVAOは、学内の内部質保証制度についても審査する。教育プログラムが要求されている総合的な質を確保しているとみなされた場合、当該プログラムは数年間有効のアクレディテーション資格が授与される。この場合、認定の有効期間を通じてその質が保たれるために、内部質保証制度が十分な機能を果たすことが重要となる。

NVAOのアクレディテーションでは、学生が身に付けるべき学習成果、潜在的な学習成果、そして学生が達成した学習成果を組み合わせることで、教育プログラムが学生や社会全体に対して実現すると約束しているものを実際に果たしているか評価することが試みられているのである。

* ダブリン・ディスクリプター (Dublin descriptors) : 授与される学位や資格において一般的に期待される成果や能力をまとめたもの。共同質保証イニシアティブ (Joint Quality Initiative: JQI) という国際的な専門家グループが2004年3月にダブリンで会合を開き、これをとりまとめた。一般的なレベルのディスクリプターが学位の第1段階（学士）、第2段階（修士）、第3段階（博士）に分けて作成されている。ここではコンピテンシーのレベルに関して、5つの基準のもとに段階ごとに記述されている。基準は、①知識及び理解の獲得、②（獲得した）知識及び理解の応用、③広い見識に基づき判断・選択を行う力、④知識及び理解の伝達、⑤自立して学習を継続できる力の5つから構成される。

評価基準

アクレディテーションでは、以下の6つのテーマについて基準が定められている。

1. 教育プログラムのねらいと目標
2. カリキュラム
3. 教職員と人事方針
4. 学生支援

5. 内部質保証
6. 成果（達成された学習成果及び学習進度）

評価規則

評価の枠組みにあげられた基準に従って評価を行うにあたり、質評価機関は4つの評価尺度（「優」（Excellent）、「良」（Good）、「可」（Satisfactory）、「不可」（Unsatisfactory））を用いる。

評価プロセス

アクレディテーションは、自己評価、外部の質評価機関による評価、NVAOによる認定の3段階を順に追って進められる。

1. 自己評価

アクレディテーションの最初の手続きは、認定対象の教育プログラムによる自己評価の実施と自己評価報告書の作成である。報告書には当該教育プログラムに関する説明と自己評価の結果が記載される。この自己評価報告書は質評価機関（VBI）に送付される。

2. 外部評価

アクレディテーションの2番目の手続きは、質評価機関による外部評価である。教育機関の要請に基づき質評価機関は外部評価を実施しこれを取りまとめる。外部評価は質評価機関の評価パネルが行う。評価パネルの構成はNVAOが定めた要件を満たしている必要がある。外部評価では、自己評価で用いられた方法も含めその質を評価するほか、当該教育プログラムがNVAOの基準を満たしているかについて審査される。外部評価は学習成果に重点を置いて実施され、パネルは評価結果や検討事項、結論を評価報告書にまとめる。

3. アクレディテーション認定

アクレディテーションの最終手続きは、認定そのものである。NVAOは評価報告書とその中に示された結論を検証し、さらに評価パネルの構成や評価に用いられた方法についても綿密に調べる。なお、教育機関はNVAOに教育プログラムのアクレディテーション申請書を提出する。申請書には、当該プログラムに関する次の事項が詳細に説明されていることが求められる。

- プログラムのレベル（学士又は修士レベル）
- プログラムの性格（専門教育志向又は学術的志向）
- 学習形態（フルタイム、パートタイム及び実習型）
- 大学又は大学院
- プログラムが提供されている場所

教育機関は、この申請書に評価報告書を添えて提出する。評価報告書は申請日にある程度近い時期に作成され、評価は申請日から遡って1年以内実施されなければならない。

NVAOは評価報告書とその評価全体について検討し、その内容がアクレディテーションの枠組みに合致しているかを確認する。場合によってはNVAOが追加情報を求めることもある。NVAOは3か月以内に認定を与えるか否かの判断を下すが、その3か月間でまず当該教育機関に対して暫定的な結果を書面で通知し、2週間以内に意見の申立てをする機会を与えてから最終的な決定を下す。

アクレディテーション結果が確定した後、NVAOは評価の所見をアクレディテーション報告書にまとめる。当該教育プログラムがアクレディテーション枠組みに定められた基準を満たしているようであれば、オラン

ダの場合 6 年間、フランダース地方の場合 8 年間有効のアクレディテーション資格が授与される。一方、評価報告書に記載された情報がアクレディテーションの決定を下すには不十分であるとみなされた場合、決定は延期される。このような場合、NVAO が決定を下すまで既存のアクレディテーション資格は有効となる。また教育機関は NVAO の決定を不服として変更を訴える法的権利を有する。

最後に、評価パネルによる評価報告書と NVAO が作成したアクレディテーション報告書（結果を含む）が NVAO によって公表される。

暫定的なアクレディテーション認定

ベルギー・フランダース地方では、アクレディテーションで「不可」という決定が下された後で当該教育機関がフランダース地方政府に申請書を提出し、暫定的な認定を求めることができる。ただしこの場合、当該機関は「不可」の通知を受けてから 1 か月以内に詳細な改善計画を申請書に添えて提出しなければならない。この申請に対してフランダース地方政府は認定委員会の助言を受けた上で、申請から 3 か月以内に決定を下す。なお、臨時的認定資格の有効期間は 1 年から 3 年である。なお、オランダにおいても改善に取り組む期間として 2 年間で認められる場合がある。

出典：

Karl Dittrich (NVAO): Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

NVAO (2003): Accreditation Framework - The Netherlands

NVAO website: <http://www.nvao.net/>

Ineke Ganzeveld (State University of Groningen): Quality assurance at the State University of Groningen, 2009.

State University of Groningen (2005): Integrated Quality Assurance for Education at the State University of Groningen.

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Qrossroads website: <http://www.qrossroads.eu/about-qrossroads>

3-3) 質保証と国際化

教育の質の保証は、高等教育の国際化という流れの中で着実に重要性を増している。そして今日では、国際化そのものをゴールとして捉えるのではなく、むしろ教育の質を高める手段とすべきであるという考え方が広まってきている。

国や教育機関の政策文書の多くにおいて、教育の質の向上が高等教育の国際化に取り組む主要な目標のひとつとしてあげられている。しかし同時に、国際化が教育の質に与える影響を体系的にチェック、評価する機能が決定的に欠けていることも事実である。そのため、国際化の進展と教育の質の向上との間に直接的な関連があるという証拠はごく限られている。

実際のところ、「質保証」と「国際化」は焦点が大きく異なるものである。「質保証」は、高等教育の国際化の質を保証することに力点を置いており、他方の「国際化」は、質保証における国際化や国際的な教育プログラムを構成する様々な要素に焦点を当てている。後者は、質保証そのものが関心の中心にあり、国際的な文脈の中で質保証活動を捉えようとするものである。

3-3-1) 全国教育資格枠組み

欧州の高等教育における透明性

きわめて質の高い高等教育は、知識基盤社会の基礎を構成する要素のひとつである。この点において、質の高い高等教育のためには学生と教員の国境を越えたモビリティ（流動性）を高めることが不可欠である。欧州では、46か国の教育担当大臣らが過去10年間にわたり、欧州高等教育制度の透明化を促し、各国の高等教育制度間の協調性を深めるため、多国間で比較可能な教育資格制度の確立にむけて数々の取り決めを行ってきた。

1999年のボローニャ宣言採択以降、各国の教育担当大臣らは欧州高等教育圏（EHEA）の基礎を築いてきた。宣言に署名をした国は全て、比較可能な教育資格制度に準拠し、同一の単位制度である欧州単位互換積算制度（ECTS）を利用し、卒業生には欧州モデルに準拠したディプロマ・サブリメントを授与することとなっている。

教育資格枠組みの役割

教育資格やモジュール修了証、あるいは単位を相互に認証するためには、異なる国の高等教育制度を適切に比較できるシステムが整備されていることが不可欠である。ボローニャ・プロセスの参加国は、欧州全体レベルの教育資格枠組みである「欧州高等教育圏のための欧州教育資格枠組み」と連携した資格枠組みを各国内で策定しつつある。このような制度を策定する第一歩として、学士、修士、博士の各学位（高等教育の3段階）について合意された総合的なコンピテンシーの要件に、各教育プログラムのレベルをすり合わせる必要がある。ここで言う総合的なコンピテンシーとは、ダブリン・ディスクリプターに明記されているものを指す。各教育プログラムがアクレディテーションを受けるにあたっては、要求されるレベルを満たしているかが吟味される。

「オランダ全国教育資格枠組み」

オランダにおいても他国と同様、国内の教育資格枠組みが構築されている。「オランダ全国教育資格枠組み」（Dutch National Qualifications Framework: NQF）は、国内の高等教育制度の構成についてまとめたもので、高等教育に進学する前の段階で必要とされる教育や高等教育の種類、様々なレベルの教育プログラムにおける修了までの期間やさらに上のレベルのコースへの編入方法などが示されている。

オランダ全国教育資格枠組み

中等教育段階の学校の種類	第1段階（学士）		第2段階（修士） レベル7	第3段階（博士） レベル8	
	レベル5	レベル6			
MBO/HAVO/VWO*	準学士号 120 ECTS単位	学士号 240 ECTS単位 専門教育志向	修士号 60~120 ECTS単位	デザイン工学 （工学博士号） （標準2年間）	博士号 （標準4年間）
VWO	180 ECTS単位 学術志向		180 ECTS単位 240 ECTS単位	医学系専門分野 （標準3~6年間）	

* MBO：中等職業訓練学校、HAVO：高等職業教育機関準備学校、VWO：研究大学進学準備学校

出典：

The Dutch Ministry of Education, Culture and Science :

<http://english.minocw.nl/documenten/OCW-NVAO%20Folder%20ENG%20def.pdf>

European Commission, the Directorate-General for Education and Culture (2008): Tuning – Universities' Contribution to the Bologna Process: An Introduction (2nd Edition).

3-3-2) 留学生受け入れに関する条例 (Code of Conduct)

2006年5月1日、オランダで高等教育を受ける外国人学生に関する条例が施行された。これはオランダの高等教育機関が外国人学生を受け入れるにあたっての行動規範を定めたものである。各教育機関はこの条例に署名することで、留学生に対し提供する教育プログラムの質や学生の募集、選抜、助言に関する手続きを保証するものとなっている。なお、本条例に署名した教育機関でなければ外国人学生を募集することができない。

外国人学生に対する情報提供

本条例は教育機関に対し、それぞれの教育プログラムに関する信頼できる情報を適切な形で留学生に提供することを義務付けている。具体的にはアクレディテーションの状況や教育の質、入学要件、その他留学生にとって重要な規則や手続きなどに関する情報である。

教育機関は、本条例に基づいて、ビザや滞在許可証の取得の補助や住居の提供、オリエンテーション、学生に対する相談支援等の外国人学生に提供できるサービス内容及びこれらのサービスにかかる費用について、英語または当該プログラムの教授言語、あるいは留学生の母語によってわかりやすく情報提供しなければならない。

なお、EU加盟国以外の国・地域出身の学生が本条例に署名していない高等教育機関のコースを履修しようとした場合、オランダ滞在のためのビザは発給されない。

条例の全文についてはNufficが運営するウェブサイトInternationalstudy.nl [英語] を参照のこと。本サイトには条例に署名した教育機関のリストのほか、自身の所属する教育機関が本条例の規定に従っていないと思われた場合にどう対処すべきかといった情報も掲載されている。

出典：Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/home>

3-3-3) 外国で取得した資格の認定

欧州の国は全て、教育資格を相互に認定できる圏内にあるとみなすことができる。すなわち、国により認可された教育機関又は教育プログラムから取得した教育資格は、国が認めた資格としてその国の内部では自動的に認定される。一方、国外で発行された資格は自動的に受け入れることはできず、改めて認定のための評価を受ける必要がある。

教育資格の認定は、例えば学生がX国で学業を修めた後、Y国で働きたいと考えている場合などに必要となる。この手続きは資格評価と呼ばれるもので、国外の資格を承認するためのものである。この評価を通じて、国外の資格を国内の資格の枠組みに入れることが可能かどうかを審査する。

国外で取得された資格の評価は、資格認定のための専門機関（資格認定団体）が担当する。欧州諸国では、各国に少なくとも1つの資格認定団体がある。最も一般的なのはENIC（ヨーロッパ情報センターネットワーク）とNARIC（全国学術承認センターネットワーク）という団体が共同で運営するENIC/NARIC（ヨー

ロッパ情報センターネットワーク/全国学術承認センターネットワーク) である。

学術的認定と専門職認定の違い

教育資格の国境を越えた認定には、学術的認定と専門職認定の2種類がある。

学術的認定とは、以下のいずれかを認める決定を指す。

- 高等教育への進学又は継続的な修学を認めるもの
- 資格を取得した国における称号や学位を根拠に、受け入れ国で認められている称号や学位を使う権利を付与するもの

一方、専門職認定は就労目的で資格を評価する方法や手続きに関するもので、性質上より複雑である。

職業資格制度には、その国の教育制度だけでなく職種や業界、専門職の構成も反映されている。例えばベルギー、ドイツ、オランダなどでは、最上級の学術的資格には追加の要件を付さなくてもそのまま専門の職業資格として通用する。一方、イギリスなどの国では大学を卒業した後、学外で特定の職業訓練を受けなければ専門資格を取得できないことが多い。

学術的認定と専門職認定は目的が違うため、異なる認定のアプローチや手段が必要とされる。しかしながら、両者とも修了資格又は資格の教育的な部分を評価するにあたっては同じ方法を用いている。

資格評価の方法

1950年代前半から1970年代半ばまで、資格の評価は「同等性」(Equivalence)を確立することを目的としてきた。資格は履修科目ごとに評価され、国外の教育プログラムの構成要素が受け入れ国の教育課程の構成要素と完全に一致していなければならなかった。

80年代になると、同等性に代わる概念として「認定」(Recognition)、すなわち特定の目的で資格又はディプロマを承認するという考え方が多くの国で取り入れられるようになった。この意味における認定とは、完全には同等ではない資格でも、特定の目的(博士課程への進学など)に見合っているのであれば認める、というものである。言い換えれば、認定を受けるにあたり、国外の資格は国内の資格と全く同じものでなくても構わず、あるいは類似する必要すらなく、国内の資格と同程度のレベルと機能、法的地位があればよいというものである。

90年代は、長年にわたり資格の認定を行ってきた ENIC/NARIC の各団体の中で、「受け入れ」

(Acceptance) という考え方が支持を得るようになった。受け入れとは、国外で取得した教育資格のレベルや内容、機能を受け入れ国の最も類似する学位と比較して同程度であると認められない場合に、多少の違いはあってもそのレベルの資格であるとして受け入れるというものである。これは互いの違いを尊重しながら受け入れるという方針に基づき、その違いが実質的に大きすぎる場合に限り承認しないという方法である。確かに「実質的に大きな違い」の正確な意味を巡って活発な議論はあるものの、このような考え方の変化は大きな進歩であるといえる。

Nuffic

オランダでは、Nuffic (オランダ高等教育国際協力機構) という機関が一般中等教育と高等教育に関連する国外の教育資格の評価を担当している。Nuffic は政府系の独立組織として運営される高等教育の国際協力機関であり、Nuffic のコミュニケーション局内にある国際学位認証部門がオランダにおける ENIC/NARIC

として機能している。

Nufficによる資格認定

資格の種類	認定の種類
中等教育修了資格 短期教育（準学士号） 第1段階の資格（学士号） 第2段階の資格（修士号）	<ul style="list-style-type: none">• 高等教育プログラムへの進学のための情報・助言を提供する学術的認定• 学術的称号の使用を認めるための情報・助言を提供する学術的認定• 労働市場へのアクセスを可能にするための情報・助言を提供する認定• 情報・助言を提供するためにEUの指令に従って行う専門職認定• 情報・助言を提供する専門職認定
第3段階の教育（博士号）	<ul style="list-style-type: none">• 学術的称号の使用を認めるための情報・助言を提供する学術的認定• 労働市場へのアクセスを可能にするための情報・助言を提供する認定• 情報・助言を提供する専門職認定

なお、中等職業教育と成人教育に関連する教育資格の評価は、Association of Centres of Expertise on Vocational Education: Colo（職業教育・訓練・労働界知識センター協会）という組織が専門に行う。Coloは産業界の様々な分野を代表する18の知識センターの統括団体である。Coloによる資格評価活動については、次のウェブサイトを参照：<http://www.colo.nl/> [英語・オランダ語]

認定の手続き

Nufficによる資格認定では個人が申請する場合、手数料として111ユーロが必要である。高等教育機関及び政府機関に対しては手数料は課せられない。

1：申請

- 国外の資格の保有者は誰でも資格評価を受けられる。
- 申請希望者は認定の可能性や手続きに関して、資格認定機関からインフォーマルな助言を受けられる。
- 申請者は所定の申請フォーマットに必要事項を記入する。
- 申請書を受理した旨の通知が発行される。
- Nufficは資格認定に関する2国間の国際協定があるかを確認する。
- 認定申請の処理に要する期間を申請者に通知する。

2：検証

- 必要書類に関し、チェックリストを用いて確認する。
- 提出された書類の信頼性を検証する。
- 評価の先例を確認する。
- 当該資格を授与した高等教育機関及びプログラムの法的地位、種類、アクレディテーションの状況を検証する。
- 資格認定を行うネットワークや関連団体からの助言を求める。

3：評価

- 定められた基準を確認し、国内資格との違いを明らかにする。
- 認定が必要な理由を考慮しつつ国内資格との違いを調査し、それが実質的なものであるかを確認する。

4：認定

- 実質的な違いが認められなければ認定する。
- 実質的な違いが認められる場合：
 - その理由を明記する。
 - 代替的又は部分的な認定を提案する。
 - 意見の申立ての可能性に関して情報を提供する。
- 認定事例の一覧に当該の決定を加える。

Nuffic は 2009 年、オランダ及び欧州の資格認定のあり方の改善にむけて 6 つの国際プロジェクトに取り組んだ。このうち「教育の中で学生が身に付けるべき能力及び認証：学位の概要 (CoRe II)」は欧州委員会による 2 年間のプロジェクトで、高等教育課程における学業の成果を説明するための実用的かつ明確な手引きを策定することを目標としたものである。一貫性があり、透明性の高い手引きに文書化できれば、資格の認定において重要な役割を果たすこととなる。また、有益な学位の概要を作成するためのマニュアルの第 1 版も Nuffic により作成されている。

既習歴の評価・認定 (Prior Learning Assessment Recognition: PLAR)

ある資格の保有者が、その教育プログラムの修了証書 (ディプロマ) が示す以上の知識やスキルを持っていることがある。実務経験や自主的な学習などを通じてさらに高い能力を獲得しているという場合である。Nuffic は、こうしたインフォーマルな学習経験は、資格評価の申請者がこれから国外で追求しようとしているキャリアにとって重要であると考え、学位等の正式な資格以外に申請者が有する学習歴の認定を積極的に行うことを方針としている。

Nuffic は評価申請者の依頼に応じてポートフォリオを作成しており、それぞれの目的に合ったフォーマットのポートフォリオを考案している。このサービスは国外の教育資格を持つ人の就労又は就学に直接的、間接的に携わるあらゆる人に対して提供されている。

ポートフォリオの様式を利用すれば、高いスキルを持った移住者が自身の既習歴について明確に説明することが可能となる。一方、国外の資格を持つ人と関わる組織にとっても、このようなシステムがあればその人の能力を明確に把握することができる。例えば大学の場合、学生の学習歴に関するより多くの情報を得ることでその学生にとって最も適した入学レベルを的確に判断できるようになるほか、外国人の従業員を採用する企業であれば、志願者のスキルが会社の要求するものと一致しているかどうかを調べることができる。

出典：

Nuffic: Knowledge without borders - Credential evaluation and Recognition.

Nuffic (2010): Annual Overview 2009.

Grossroads website: <http://www.grossroads.eu/about-grossroads>

4. 質保証に関する法令

- 高等教育・研究法 (WHW) 1993 年制定 (2002 年改正)
- 高等教育・アクレディテーション法 2002 年制定
- 教育査察法 (WOT) 2002 年制定

5. 高等教育質保証に関する最近の動き

5-1) ランキング

オランダの学生が進学先を考慮する際、「一番良い教育機関」という視点から考えるのではなく、例えば専門分野やアカデミックな伝統など、その研究大学あるいは高等職業教育機関とその他の機関との違いを際立たせる特徴に目を向けて決めることが多い。現在、オランダ国内には公的な大学ランキング制度はないが、最近では教育機関の種類・特徴別の分類制度や教育機関としての成果に関するランキング制度の構築への関心が高まっている。

ランキング、特に成果や業績のランク付けは、名声のある教育機関の権威を強化することにつながるという声が上がると多くの議論を呼んでいる。一般的には、ランク付けが避けられないのであれば適切な形で実施すべきである、また利害関係者への十分な情報提供という目的に資するものであるべきだという意見が多い。ランキング制度の主な目的は、教育情報制度の一環として学生や志願者に対し情報を提供することなどであり、特に教育プログラムについて入手できる情報が限られている国外の学生にとって、こうした情報制度は非常に有益であろう。したがって、このようなランキングの実施にあたっては、多面的に行うこと、教育機関そのものをランク付けしないこと、教育と研究の両面に注目すること、成果・業績は客観的な基準、国際的な視野に立って判断することに留意すべきであると指摘されている。

現在、オランダ教育・文化・科学省による支援の下、オランダ高等教育政策研究センター（CHEPS）がプロジェクトを組み、ドイツの高等教育開発センター（CHE）が策定したランキング制度のオランダの高等教育への適用に関する検証が試みられている。オランダにおけるこうした取組はオーストリアやスイスに続くもので、ランキングに関する欧州全体の取組にも貢献している。

オランダの高等教育と関係する主な大学ランキング：

- Times Higher Education 世界トップ 200 大学ランキング（英国）：世界の大学ランキング
<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/> [英語]
- 上海交通大学高等教育研究所 世界大学学術ランキング（中国）：世界の大学ランキング
<http://www.arwu.org/aboutARWU.jsp> [英語・中国語]
- ライデン大学科学技術研究センター ライデン・ランキング（オランダ）：論文被引用度などを用いた欧州及び世界各国の研究機関比較
<http://www.socialsciences.leiden.edu/cwts/products-services/leiden-ranking-2010-cwts.html#introduction> [英語]
- Elsevier Thema Studeren（オランダ）：オランダの学生と教員（教授及び上級講師）による大学の教育プログラム評価
<http://www.elsevier.nl/web/Weekblad/Onderzoeken/De-beste-studies-2010-1.htm> [オランダ語]

5-2) 新しいアクレディテーション制度

オランダ及びベルギー・フランダース地方の高等教育プログラムを対象とした現在のアクレディテーション制度は実効性が高く、政治的合法性も確立しており、国際的にも確かな制度であると評価されている。しかしながらこの制度にも難点があり、認定までに時間がかかる、受審機関側の教職員の不安を招き、特段重要でない情報までもが大量に提出される、内容よりも手続きやプロセスを重視する傾向にあるなどいくつかの問題を抱えている。また、評価専門家の報告書や NVAO のアクレディテーションの過程で記された資料が

形式的であり情報を読み取りにくいという指摘もあがっている。

こうした理由から、これまでのアクレディテーション制度に代わり 2011 年 1 月より新しい制度が導入されることになった。新制度のもとでは、プログラム別アクレディテーションの他に機関別オーディット (Institutional audit) が新たに始まり、2 種類のアクレディテーション制度が導入される。機関別オーディットでは高等教育機関の内部質保証制度に対して調査・評価が実施される一方、教育プログラムのアセスメントではピア・レビューによって学生が身に付けるべき学習成果と学生が達成した学習成果が評価される。

新しいアクレディテーション制度は、アクレディテーションにかかる負担の軽減を図ること、学生及び労働市場に対し、より質の高い適切な情報を提供すること、アカウンタビリティと制度強化のバランスをとること、評価の手続きではなくプログラムの内容を重視すること、定量的な項目ではなく学習成果を評価しプログラムの内容や学習成果に関する議論に教員を関与させること、教育機関の自主性・主体性を高めることなどを目的としている。

新しいアクレディテーション制度の概要

1. 機関別オーディット

評価の焦点	教育・学習の観点から高等教育機関の内部質保証制度の機能を重視
評価基準	<p>基準 1：提供する教育の質についてのビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教育機関は提供する教育の質や質を重視する文化の育成について広いビジョンを持っているか。 <p>基準 2：ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教育機関はビジョンを実現するための適切な方針を定めているか。方針には授業、教職員、施設に関すること、教育への研究の関与や教育と（国際的な）職業分野及び学問分野との相互関係に関する方針が含まれていなければならない。 <p>基準 3：結果</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教育機関は提供する教育の質に関するビジョンの達成状況について深く考察しているか。教育プログラムの質について、学生や教職員、卒業生、各職業分野の代表者から意見を募り、定期的にモニタリングを実施しているか。 <p>基準 4：改善ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 必要に応じて教育プログラムの質を体系的に改善する体制が整備され、それが実践されているか。 <p>基準 5：組織及び意思決定の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> - 教育機関では教育プログラムの質に関する職務や権限、責任が明確に区分され、学生や教職員等の意見を取り込んだ効果的な組織構成、意思決定の構造が整備されているか。
評価の決定	「適格」(Positive)、「不適格」(Negative)、又は「条件付き適格」(Conditionally positive)

2. プログラムアセスメント

限定的プログラム別アセスメント 〈機関別オーディットで適格 (Positive) の場合に受審〉	包括的プログラム別アセスメント 〈機関別オーディットで不適格 (Negative) の場合に受審〉
評価の対象： <ul style="list-style-type: none"> • 教育プログラムの内容 • 成果・業績 	詳細な評価の対象： <ul style="list-style-type: none"> • 教育プログラムの内容 • ポリシー • 教育プロセス
3つの評価指標（質問項目）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が身に付けるべき学習成果 2. プログラムと教職員の質 3. 学生が達成した学習成果と学習評価 	16の基準、6つの評価指標（質問項目）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が身に付けるべき学習成果 2. 教育プログラム 3. 教職員 4. 学生支援 5. 質保証制度 6. 学生が達成した学習成果と学習評価
評価の決定：「不可」(Unsatisfactory)、「可」(Satisfactory)、「良」(Good)、「優」(Excellent)	

出典：

Centre for Higher Education Policy Studies (CHEPS) (2007): Higher Education in the Netherlands: Country report.

Karl Dittrich (NVAO): Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

Times Higher Education website: <http://www.timeshighereducation.co.uk/>

Shanghai Jiao Tong University, the Academic Ranking of World Universities website: <http://www.arwu.org/aboutARWU.jsp>

Centre for Higher Education Development website:

<http://www.che.de/cms/?getObject=302&getLang=en>

Elsevier Thema website:

<http://www.elsevier.nl/web/Weekblad/Onderzoeken/De-beste-studies-2009.htm>

Leiden University website: <http://www.leiden.edu/>

IV. 質保証機関・高等教育国際協力機関の概要

1. オランダ・フランダースアクレディテーション機構 (NVAO)

1-1) 基本情報

組織名	NVAO (オランダ・フランダースアクレディテーション機構)
組織の性格	ボローニャ・プロセスの枠組みのもと、オランダ及びベルギー・フランダース地方の国際協定に基づき、独立した質保証機関として設置。評価の手続き、方法、意思決定において中立的立場を保つ。
設立年	2003年 (正式には設置に関する法的手続きが完了した2005年)
所在地	Parkstraat 28, 2514 JK The Hague, The Netherlands
代表者	Karl Dittrich 会長 (Chairman)
予算	年間予算: 560万ユーロ (オランダ政府とフランダース地方政府が6:4の比率で出資) 政府の拠出金だけではアクレディテーションにかかる費用を捻出できないため、評価手数料を受審機関から徴収 (初期アクレディテーションの場合1件につき最高1万ユーロ、周期アクレディテーションは1件につき500ユーロ)
組織体制	<ul style="list-style-type: none"> • 諮問委員会 (12名) • 理事 (11名) • 専任理事 (4名) • 常務取締役 (1名) • 国際関係担当 (4名) • ポリシー・アドバイザー (一般及び国際) (23名) • スタッフサービス (法務、広報、会計・人事) (7名) • サポートサービス (14名)

出典:

NVAO website: <http://www.nvao.net/>

INQAAHE website: <http://www.inqaahe.org/>

Axel Aerden (NVAO) (2009): *General introduction to accreditation in the Netherlands and Flanders.*

Karl Dittrich (NVAO): *Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).*

1-2) 使命・役割

使命

教育プログラムの評価やアクレディテーション（適格認定）を通じて、オランダ及びベルギー・フランダース地方の高等教育の質を保証するとともにさらなる質的向上を促すこと、高等教育における質への意識を高め、国内外におけるオランダ及びフランダース地方の高等教育の地位的向上に寄与することを使命としている。

高等教育における NVAO の役割

高等教育における NVAO の役割は、以下の通りである。

- オランダ及びベルギー・フランダース地方の高等教育に積極的に参画するパートナーであること
- 欧州の質保証及びアクレディテーションにおいて先駆的な役割を果たすこと
- オランダとフランダース地方の両地域において、高等教育機関や専門家、統轄団体、専門職業団体、学生、雇用者団体、労働組合などに包括的なコンサルティングを提供すること
- 教育機関や学生、労働市場との積極的な対話
- 自らの評価アプローチ、評価手続きの検証

出典：NVAO website: <http://www.nvao.net/>

1-3) 組織の法的基盤

オランダ・フランダース間で締結された条約

オランダ政府とベルギー・フランダース地方政府は2000年、両地域の高等教育プログラムのアクレディテーションを担う質保証機関を共同で設立することで合意した。オランダとフランダース地方では当時ボローニャ宣言を実行に移すための取組を続けられていたが、高等教育プログラムの国際比較をさらに容易にするには、十分に機能し、かつ国際的に認められるアクレディテーション制度の導入が不可欠であると考えられていた。また、既存の外部評価制度にとっても、アクレディテーションはその基盤となる重要なものであった。

2001年には、オランダとフランダース地方の担当大臣らによる暫定協議が行われ、2国間アクレディテーション機関の設立について話し合いが進められた。2003年4月には、当時の両地域の教育担当大臣が新機関（オランダ・フランダースアクレディテーション機構：NVAO）を設立する根拠となる条約の内容について協議を開始した。そして同年9月3日、共同のアクレディテーション機関を設置するための条約にオランダとフランダース地方の担当大臣が署名、NVAOの設立が決定した。同条約には、NVAOの役割や運営・監督の形態が規定されている。2005年2月1日、設置に関する法的手続きが完了し、NVAOが正式に設立した。

出典：NVAO website: <http://www.nvao.net/>

1-4) 主な業務内容

1-4-1) 初期アクレディテーション（設置認可）

初期アクレディテーションとは、新規の学位プログラムを対象とした適格認定で、初期アクレディテーション枠組みが定める評価手続き、質基準、評価ルールに基づいて行われる。新規の学位プログラムとは、国の公式登録（オランダではオランダ政府認定高等教育プログラム登録（CROHO）、フランダース地方は高等教育登録）にまだ登録されていないプログラムを指す。初期アクレディテーションでは当該教育プログラムにおいて将来的に見込まれる質に関して評価が下される。初期アクレディテーションにおいて認定を受け

ば、公的なプログラム登録に登録されることとなるため、本システムは通常の周期的アクレディテーション制度の入り口を管理する門番的な役割を果たしているといえる。初期アクレディテーションのプロセスは評価申請、NVAOによる外部評価、NVAOによる認定の3段階で構成される。

評価申請

初期アクレディテーションの第1段階は教育プログラムによる評価の申請である。申請の責任は各教育機関が負っており、評価対象となるプログラムに関する様々な書類を準備する必要がある。申請書には、初期アクレディテーション枠組みに示されたテーマ、基準、評価基準に沿って当該プログラムに関する詳細な説明がなされる。また、当該教育プログラムのレベルと志向性についても具体的に実証する必要ことが求められる。

外部評価

初期アクレディテーションの第2段階は外部評価である。NVAOは評価パネルを召集し、本パネルが当該プログラムの外部評価を行う。評価パネルは申請があったプログラムにおいて見込まれる質を評価するとともにプログラムが評価基準を満たしているかどうかを確認する。評価では学習成果が重視され、評価パネルは客観的な評価結果や主観的な検討事項、結論などを評価報告書にまとめる。評価報告書には、NVAOが初期アクレディテーションを可とすべきかあるいは不可とすべきかについてパネルの提言が記載される。

認定

第3段階は初期アクレディテーション認定そのものである。NVAOは評価報告書とその中に提示されている全体の結論を審査する。この段階においてNVAOは、一般に求められる質を当該プログラムが提供できる見込みがあるか検証を行う。これに基づきNVAOは初期アクレディテーションの可否を決定し、その結果を報告書にまとめる。最後にパネルによる評価報告書とNVAOの初期アクレディテーション報告書（評価結果を含む）を公表する。

認定結果が「可」であった場合、当該プログラムは初期的認定（設置認可）を受けることになり、当該国の公的なプログラム登録制度に登録される。この登録を受けて初めてプログラムの修了により取得できる資格が国により認められたことになるほか、プログラムが交付金を受けたり、当該プログラムを履修する学生が奨学金等の学生財政支援を受けることが可能となる。ただし、私立の教育機関は公的資金や学生に対する財政支援制度の利用が認められないことが多い。初期アクレディテーションの結果が不可であった場合、当該機関はプログラムを提供することができない。

1-4-2) アクレディテーション（周期評価）

大学の教育制度が、オランダ及びベルギー・フランダース地方に由来からあったものから、アングロサクソン系の国・地域で一般的であった学士、修士の学位制度に変更したのを受け、学位プログラムが一定の質基準を満たしているか確認するためのアクレディテーション（適格認定）制度が構築されることとなった。適格性の認定は、プログラムが公費を受け、公式に認定された学位証書を発行する権利を確保し、また同プログラムを履修する学生が奨学金や貸付金を受けられるための必須条件である。

NVAOは、外部の質評価機関（VBI）の評価パネルによる具体的な評価活動とその報告書に基づいてアクレディテーションを実施する。VBIは専門の質評価機関としてNVAOに認定された団体で、現在オランダで7つ、フランダース地方に2つある。（質評価機関の名称は36ページを参照）。質評価機関は評価対象

の教育プログラムが行う厳格な自己評価に基づき外部評価を実施し（訪問調査は最低 4 名の専門家チームで行い、その内 1 名は必ず学生を含む）、評価報告書を作成する。NVAO はこの報告書をもとにアクレディテーションの最終判断を下す。

質評価機関の職員は評価に関して十分な経験を持っており、教育プログラム提供者による自己評価や自己評価報告書の作成過程及びアクレディテーション申請の際のサポートを行う。

NVAOによるアクレディテーションの概要は34ページを参照。

1-4-3) その他の業務

アクレディテーション以外のNVAOの業務で特に重要なものを以下にあげる。

(1) フランダース地方の高等教育登録

NVAOは、ベルギー・フランダース地方で公式に認証された全ての高等教育機関及び学士・修士課程を網羅したリストを公表する役割を担っており、フランダース地方における認証済み教育プログラムの政府登録制度である「高等教育登録」を管理している。これはウェブ上のデータベース形式のもので、登録を受けた機関とプログラムの情報が英語・オランダ語で掲載されている。

(2) 私立の高等教育機関の認可

オランダにおける民間の高等教育機関の認可に関しては教育・文化・科学省長官が方針を定め、NVAOが認可手続きを担当している。NVAOはこれまでに「認可手続きプロトコル」を策定し、教育プログラムが認可資格を得るために必要な評価規準等をまとめた。オランダでは私立の高等教育機関がこの認可を受けた場合、公的資金を受ける権利を除き公立の教育機関と同一の権利を確保することができる。

1-4-4) 国際化と質保証

国際化と質保証に関する業務に関するNVAOの目標のひとつに、高等教育の質保証に関する国際的な動向や取組を観察し取り入れつつ、こうした取組そのものに影響を与えていくことがあげられている。NVAOはこれまでに、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）及び経済協力開発機構（OECD）が共同でまとめた「国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン」、欧州委員会による「欧州の高等教育における質保証のための基準とガイドライン」や「欧州資格枠組み」などの国際的な取組に携わってきた。

NVAOは、オランダ及びベルギー・フランダース地方の関係省庁の高官や国際的なネットワークを持つ各種団体の関係者等との良好な関係を維持し、緊密な連携を図っている。目下の重要課題は、ポローニャ・プロセスの進展と、オランダとフランダース地方における全域的な資格枠組みの構築である。さらに、エラスムス・ムドゥスプログラムの導入においてもNVAOは重要な役割を担っており、本プログラムの共同修士課程を対象とした評価の円滑化や本プログラムに参加する教育機関に関する情報提供などに取り組んでいる。

(1) 国際組織加盟状況

NVAOは、欧州の質保証機関との間で密接な連携を図りながら、高等教育の水準・質の国際的な発展にあたり主導的な役割を果たしている。欧州における国際的な質保証においてはENQA（欧州高等教育質保証ネットワーク）、ECA（欧州高等教育アクレディテーション協会）、EQAR（欧州高等教育質保証機関登録）の3つとの関係が特に重要である。

ENQA（欧州高等教育質保証ネットワーク）

ENQA（European Association for Quality Assurance in Higher Education）は、ボローニャ・プロセスに参画している欧州諸国の質保証機関のネットワークで、質保証の分野で欧州諸国の連携を強化するため設立された組織である。同機関は政治的な役割を担っており、各種手続きや評価方法の導入における各国の協力を促している。NVAOはENQAの年次総会に出席しているほか、ENQAが開催するワークショップに参加している。ここ数年間は「欧州の国境を越えた評価プロジェクトⅡ」（Transnational European Evaluation Project II: TEEP II）などに参画している。

ECA（欧州高等教育アクレディテーション協会）

ECA（European Consortium for Accreditation）は、欧州11か国の17のアクレディテーション機関によって構成される組織で、加盟機関間のアクレディテーション認定結果を相互に認証することを目的に設置された組織である。NVAOはECAにおける主導的機関のひとつとして、ECAが実施する様々な質保証関連のプロジェクトに参画している。

EQAR（欧州高等教育質保証機関登録）

EQAR（European Quality Assurance Register for Higher Education）は、「欧州の高等教育における質保証のための基準とガイドライン」に準拠して活動している、欧州でも特に信頼性の高い質保証機関を集めたリストを作成している。

（2）質保証の国際的な動きに対する働きかけ

アクレディテーション結果の相互認証

アクレディテーション結果の相互認証は、NVAOの主たる目標のひとつにあげられている。NVAOが下したアクレディテーションの決定が他国の認証団体・機関でも相互的に認められるようになれば、オランダやフランダース地方の高等教育機関の学生及び卒業生のモビリティ（流動性）を高めることができる。また、国外の高等教育機関の学生や卒業生にとっても、オランダやフランダース地方の機関への進学や就職がこれまで以上に容易になる。現在NVAOは、オーストリア（2機関）、フランス（1機関）、ノルウェー（1機関）、ポーランド（1機関）、スイス（1機関）の計6つの質保証機関との間でアクレディテーション結果の相互認証協定を結んでいる。

現在、共同教育プログラムなどの国際的な教育プログラムを実施している機関は、提供先の国・地域において自国とは異なるアクレディテーション手続きや規制に対応しなければならない。アクレディテーション結果の相互認証は、こうした教育機関にもメリットがあると考えられている。ECAに加盟する質保証機関にとって、アクレディテーション結果の相互認証は大きな目標の一つであり、NVAOもECAのパートナー機関のひとつとしてこの目標の達成にむけ活発に取り組んでいる。

「欧州における透明性あるアクレディテーション認定と相互認証に関する協定プロジェクト」（TEAM）

TEAMは、欧州委員会の資金援助を受けてNVAOのとりまとめのもとに2006年10月から2008年9月にかけてECAのパートナー機関が共同で行ったプロジェクトである。TEAMとは、欧州における透明性の高いアクレディテーション認定と相互認証に関する協定（Transparent European Accreditation decisions and Mutual recognition agreements）を意味し、欧州域内でどの教育機関やプログラムが適格と認定されているかについて、学生、アクレディテーション機関、高等教育機関、雇用者等が調べられるインターネットの情報ツールを開発することを目的として進められた取組である。本プロジェクトには、欧州の10か国（オーストリア、ベルギー、フランス、アイルランド、ドイツ、オランダ、ノルウェー、ポー

ランド、スペイン、スイス)が参加した。

ウェブサイトGrossroads

TEAMプロジェクトの成果は、ウェブサイトGrossroads(語頭のQは質(Quality)と資格(Qualifications)を表す)という形で結実した。これは、アクレディテーションを受けた教育機関やプログラムが授与する資格等に関する情報を提供するウェブサイトで、欧州の高等教育プログラムの利害関係者(学生、雇用者、教育機関等)にとって有益な情報源となることを目的として構築されたものである。個々の情報は質保証機関やアクレディテーション機関自身が提供しており、NVAOはGrossroadsのパートナーとして、オランダ及びフランダース地方でアクレディテーションを受けた機関や教育プログラムに関する情報を提供している。現在、本サイトは8つの国・地域(オーストリア、ベルギー・フランダース地方、デンマーク、フランス、ドイツ、ポーランド、スイス、オランダ)の教育プログラムについての情報を掲載しているが、対象地域は今後拡大される予定である。

TEAM IIプロジェクト

TEAMプロジェクトを受け、ECAでは現在TEAM IIプロジェクトが進行中である。TEAM IIは、共同教育プログラム*が授与する資格の認定を推進し、こうした教育プログラムのアクレディテーションを円滑に進めることを目標とする取組である。

TEAM IIプロジェクトの取組事例には、次のようなものがある。

- 現在は、共同教育プログラムが提供されているそれぞれの国で複数のアクレディテーション手続きを踏まなければならないが、代わりに共同教育プログラムに関する適格認定(質評価)の欧州レベルの単一モデルを構築する。
- ENIC/NARIC間で、共同教育プログラムが授与する資格の認定に関する優れた取組の共有を促す。
- Grossroadsなどを通じて、共同教育プログラムの質評価及び学習成果に関する透明性の高い情報を提供する。

TEAM IIには、NVAOを含め欧州12か国の18の質保証機関が参加しており、現在は、共同教育プログラムのアクレディテーション認定手続きに関する欧州統一の方法の確立を目指して、5つのパイロット・プロジェクト**が進められている。

* 「ECA 共同教育プログラムのアクレディテーション手続きに係る原則」において、共同教育プログラム(Joint programme)は「授与される学位の種類(共同学位、複数学位、ダブルディグリー等)に関係なく、異なる高等教育機関が共同で提供する教育課程」と定義されている。また、ジョイントディグリー(Joint degree)は「共同教育プログラムを提供する教育機関が当該課程の修了を証明するため、国内のすべてのディプロマに代わるものとして発行する共同ディプロマ」と定義されている。

** 共同教育プログラムのアクレディテーションに関する5つのパイロット・プロジェクトは以下の通り：①エラスムス・ムンドゥス修士課程 グローバリゼーションにおけるジャーナリズムとメディアプログラム(EMMA)、②欧州初等教育教員養成プログラム(ETEPS)、③欧州共同修士・比較地域開発プログラム(CoDe)、④欧州共同修士・国際人道支援プログラム(NOHA)、⑤欧州修士・盆地と岩石圏に関する地球科学プログラム。NVAOはこのうち①、②、④、⑤の質保証に関与している。

学位の相互認証

2005年から2006年にかけて、オランダ、ベルギー・フランダース地方、ノルウェー、オーストリア、ポーランド、スイスの各国の資格認定機関とアクレディテーション機関が「学位の相互認証に関する共同宣言」に署名した。近い将来、より多くの国が署名する見通しとなっている。

この宣言は、アクレディテーション結果の相互認証と同様に、取得した資格についてもよりスムーズに相互的な認証が行えるよう、比較可能な資格枠組みを国内に導入することを基調としたものである。アクレディテーション機関と資格認定機関間の国境を越えた協力は、適格認定を受けた教育プログラム及び教育機関が授与する資格が相互的に認証される欧州資格圏の実現というNVAOの最終目標に向けての大きな一歩となっている。

教育の国際化に関する欧州サーティフィケート

教育における国際化は、オランダ及びベルギー・フランダース地方においては特にその重要性が認識されており、高等教育機関、質保証機関双方により、教育の国際化が両地域のさらなる発展に寄与するものであると考えられている。オランダとフランダース地方は貿易やサービスの面で相互に深く支えあう関係にあり、また小規模地域として良好な国際関係が重要であることから、国際化の重要性はほとんどの職業や学問分野において自明のことであり、教育分野においても最重要課題のひとつとなっている。NVAOのアクレディテーション枠組みにおいても、国際化は教育の質を構成する重要な要素として位置付けられている。

こうした中、教育の国際化の重要性を強調すべく、大学等における国際化の取組を評価し、優れた取組を行うプログラムに対してサーティフィケート（証明書）を授与するシステムの構築がNVAOが中心となり進められている。サーティフィケート制度の目的は、各国の高等教育機関における国際化の取組の推進、国際化の質的向上、高等教育機関間で連携体制を構築するためのツールの提供、国際化に取り組む高等教育機関に対するインセンティブ、国際化に関する優れた取組に対して評価を与えることなどである。

国際化サーティフィケートに関して、NVAOは以下の原則を提案している。

1. サーティフィケートは、教育プログラムのポリシーに定義されたレベルに基づく。
2. サーティフィケートは、教育プログラムの国際化の評価に基づいて授与される。
3. 国際化の目標は、当該プログラム全体の質に大きな影響を与えるものでなければならない。
4. 国際化は、学生が身に付けるべき学習成果や学生が達成した学習成果に反映される。
5. 国際化に関する諸活動は、教育・学習、教職員、サービス、学生に関する各基準に沿っていること。
6. 国際化に関する評価は、専門的知識を持った評価パネルによって行われること。
7. 評価は、「基準を満たしていない」(Unsatisfactory)、「一定の基準を満たしている」(Satisfactory)、「良い」(Good)、「卓越している」(Excellent)の4段階とする。

質の構成要素として明示されている国際化に関する評価の枠組みは6つの基準で構成されており、それぞれに少なくとも1つの評価規準が設けられている。

1. 国際化の観点・展望又は方策
2. 学習成果（その目標値と達成度）
3. カリキュラム、教授、成績評価の仕方
4. 教員（教員の国際経験、技量、構成、プログラムへの関与の仕方）
5. 学生及び教員へのサービス
6. 学生（プログラムへの関与、学生の国際経験、学生・学位・資格のモビリティなど）

国際化サーティフィケートに関する詳細は、NVAOのウェブサイト参照：<http://www.nvao.net/>

出典：

NVAO website: <http://www.nvao.net/>

Karl Dittrich (NVAO): Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

Mark Frederiks (NVAO): Approaches Regarding Quality Assurance of Joint Programmes and Internationalisation (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

Karl Dittrich (NVAO): Introduction to the TEAM II project (ECA Seminar material, 10th June 2010, Graz, Austria).

Mark Frederiks (NVAO): Accreditation of Joint Programmes (ECA Seminar material, 26th March 2010, Warsaw, Poland).

ECA website: <http://www.eacaconsortium.net/>

Karl Dittrich (NVAO): Toward a (European) certificate for internationalisation? : A NVAO proposal (NVAO-ECA Seminar material, December 2009, The Hague, The Netherlands).

NVAO: Programme accreditation and internationalization - A distinctive (quality) feature for internationalisation - : <http://www.nvao.net/>

Qrossroads website: <http://www.qrossroads.eu/about-qrossroads>

2. オランダ高等教育国際協力機構（Nuffic）

2-1) 基本情報

組織名	Nuffic（オランダ高等教育国際協力機構）											
組織の性格	独立の非営利団体											
設立年	1952年											
所在地（本部）	Kortenaerkade 11, 2518 AX The Hague, The Netherlands											
海外オフィス	ブラジル、中国、インド、インドネシア、メキシコ、ロシア、韓国、台湾、タイ、ベトナム											
代表者	Sander van den Eijnden 事務局長（Director-General）											
職員数	276名（うち216名は本部に勤務）											
予算（2009年）	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムへの支出総額：132,021,000ユーロ ・ 運営費用推定総額：24,254,000ユーロ <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">財源</th> <th style="width: 40%;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オランダ外務省</td> <td style="text-align: right;">90,755,000ユーロ</td> </tr> <tr> <td>欧州委員会</td> <td style="text-align: right;">25,134,000ユーロ</td> </tr> <tr> <td>オランダ教育・文化・科学省</td> <td style="text-align: right;">12,957,000ユーロ</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">3,175,000ユーロ</td> </tr> </tbody> </table>		財源	金額	オランダ外務省	90,755,000ユーロ	欧州委員会	25,134,000ユーロ	オランダ教育・文化・科学省	12,957,000ユーロ	その他	3,175,000ユーロ
財源	金額											
オランダ外務省	90,755,000ユーロ											
欧州委員会	25,134,000ユーロ											
オランダ教育・文化・科学省	12,957,000ユーロ											
その他	3,175,000ユーロ											
組織体制	<p>Nuffic は評議会、役員会及び事務局から構成される。</p> <p><u>事務局組織構成</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャパシティ・ビルディング及び奨学局 <ul style="list-style-type: none"> ・ キャパシティ・ビルディングプログラム部門 ・ 全国生涯学習部門 ・ 奨学金プログラム部門 2. コミュニケーション局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育推進部門 ・ 国際学位認証部門 ・ 情報サービス部門 3. 知識・イノベーション局 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンサルテーション基盤部門 ・ UNESCO 事務局国内委員会 4. ビジネス支援局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対内サービス部門 ・ 企画・管理部門 											

出典：

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Nuffic (2010): Nuffic Annual Overview 2009.

Sander van den Eijnden (Nuffic): View on Internationalization (NIAD-UE Seminar material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).

Marijke Blom-Westrik (Nuffic): Bologna Process - Mutual Recognition of Qualifications in Higher Education (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

Marijke Blom-Westrik (Nuffic): Credential Evaluation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

2-2) 使命

Nuffic は、オランダ・ハーグに本部を置く独立の非営利団体として、オランダ及び国外の高等教育、研究、専門教育の国際化を推進するとともに、世界各地における高等教育への参加機会の向上を支援することを使命としている。

出典 : Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

2-3) 主な業務内容

2-3-1) 教育推進活動

Nuffic では、コミュニケーション局教育推進部門が中心となり、海外におけるオランダの高等教育の宣伝・広報及び振興、並びに海外の高等教育機関との交流推進に関する取組を行っている。また、世界 10 の国・地域に海外オフィスが設置され、当部門の事業の支援にあたっている。教育推進に関する主な活動は次の通りである。

- オランダの高等教育推進に関する諸活動自体の質の向上：
利害関係者との連携の強化、外国人学生・研究者のモビリティを高めるためのツールの開発
- 留学キャンペーン「オランダで学ぼう」(Study in Holland) の企画・運営及び実施：
対象国・地域における実地的な宣伝活動のほか、ウェブサイト上においても展開。オランダ留学のブランド力の強化、様々な国際的な留学フェアの企画・調整及び参加
- 外国人学生の同窓生ネットワークである Holland Alumni network の企画・運営：
オランダ留学を経験した外国人学生・研究者の国際的な同窓生ネットワーク作りの支援、国内外の同窓生組織に関する情報提供、関連するイベント (Holland Alumni Conference など) の開催

2-3-2) 奨学金事業

オランダでは政府が主導となって、国外の学生や専門職に従事する社会人がオランダの高等教育にアクセスできる機会を最大限に高めるための努力が続けられている。こうしたなか Nuffic は、高等教育における交流や協力を促す目的から、オランダの高等教育機関と中欧・東欧諸国を含む他の先進国の高等教育機関との間での連携協力関係を促進するためのスキームとして、奨学金制度のある交換留学プログラムなどを整備している。

奨学金プログラムの検索エンジン

Grantfinderは、オランダへの留学を希望する外国人学生が利用できるオランダの奨学金制度について幅広く調べることのできるインターネットの検索エンジンである (オランダの奨学金制度の詳細は、<http://www.grantfinder.nl/>か、次のサイトを参照：<http://www.nuffic.nl/scholarships> [英語・オランダ語])。

2-3-3) 資格評価

(1) 国外のディプロマ（証書）の評価（国外→オランダ）

Nuffic は、オランダ国外で取得された中等又は高等教育修了書の評価を行っている。また、その教育プログラムや教育機関が公式に認証されているかどうかを確認する作業も担当している（Nuffic による国外のディプロマ評価については、43 ページを参照）。

(2) オランダのディプロマ（証書）の評価（オランダ→国外）

Nuffic は、国外での就業を希望する際などに、他国においてオランダで取得した高等教育のディプロマ（証書）の認定が必要となる場合のために、オランダの教育資格に関する説明書を用意している。説明書には、オランダのディプロマや職業教育訓練プログラムについての情報、受入国でその資格がどのように評価されるべきかについてのアドバイスなどが英語で記載され、高等教育機関が発行するディプロマに添付される。こうした説明書は、大学院レベルの職業資格や修士以上の教育プログラムについて必要になることが多い。

(3) 特定分野の外国の資格に関する組織内研修

Nuffic は欧州特許庁に対し、人事担当職員が欧州の工学系資格の法的地位や構成、内容について正しく理解し評価できるようにするためのコースを特別に編成し提供している。コース内容は、教材の形で国ごとのモジュールが分かるようにまとめられている。

(4) 職業教育訓練資格の認証に関する EU 指令の導入に向けたコンサルティング

ラトビア、ポーランド、チェコ共和国が EU に加盟した際、Nuffic はこれらの国に対し、職業教育訓練資格の認証に関する EU 指令を効率的に導入できるよう支援を行った。支援は、Colo（労働界知識センター協会）、VTL（全国運輸物流職業訓練団体）と共同で、2 年間のプロジェクトという形で実施された。

2-3-4) 専門職認定

(1) ナショナル・コンタクト・ポイント

EU 加盟の 27 개국及びアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイスの各国は EU の指令に基づき、専門職認証に関する情報センターを設立した。Nuffic は、オランダにおける専門職認証の情報センターとしても機能している。

専門職認証に携わるナショナル・コンタクト・ポイント（NCP）は、他国で専門職の業務に従事しようとしている人々に情報を提供する役割があり、EU の指令により規制が敷かれている職業である場合、NCP は専門職認証を受ける資格のある人を別の国のその職業の管轄当局に対し照会させることができる。また、NCP は専門職認証の手続きに関して助言を行えるほか、例えば NCP の通知書を発行するなどして個人を支援することもできる。

2-3-5) キャパシティ・ビルディング（能力向上）

Nuffic は、開発途上国の個人、組織、機関がより高い成果を上げられるようにするための、あるいは専門知識やノウハウ、スキルを拡充することで能力育成を支援するための様々なプログラムを提供している。

開発途上国を対象とした能力開発・向上を主な目的とするこれらの国際教育プログラムは、それぞれ NFP、NPT、NICHE と呼ばれ、オランダ外務省による財政支援のもとに Nuffic が管理している。

- NFP（オランダ・フェローシップ・プログラム）：オランダの教育機関が提供する選定教育課程を履修するための奨学金プログラム。外国人学生の進学が可能な短期コース用、修士課程用、博士課程用の3種類がある。NFPは61か国を対象に、公共部門、民間部門、あるいは非政府部門を問わず、中堅の職員の教育・研修訓練に重点を置いており、各職員が自身の所属する組織内でさらなる能力向上に取り組むことを主眼としている。
- NPT（オランダ中等後教育・訓練機関能力向上プログラム）：14か国を対象に、中等後教育を提供する教育・研修訓練機関の能力向上を目的としたプログラム
- NICHE（オランダ高等教育能力開発イニシアティブ）：開発途上国22か国を対象に、中等後教育及び研修を提供する機関や団体の組織的な能力向上を目的としたプロジェクト。受入国の当局とオランダ大使館によって選択された機関、分野、テーマに沿った取組がなされる。

2-3-6) コンサルティング及び研修

Nufficは、高等教育の国際化にむけた教育機関自身の取組を支援する様々なサービスを提供している。国際化に関する支援はNufficの主要な役割のひとつであり、教育の国際化に対する全ての組織の興味関心を起こすことをねらいとして世界中の機関がこうしたサービスを利用することができる。以下、Nufficによる主なコンサルティング及び研修業務をあげる。

(1) コンサルティング

開発途上国の学生に対する研修の効果に関する評価

Nufficは、開発途上国から派遣されオランダその他の国で教育課程を履修する学生に対して提供される研修の効果の評価を行っている。最近では、NORAD（ノルウェー開発協力機構）が出資するノルウェーの奨学金プログラムに対する評価や、欧州委員会が出資するアルバン・プログラム（欧州委員会の地域国際協力プログラムのひとつで、奨学金プログラム等を通じて高等教育分野におけるラテンアメリカとEUの連携強化を目指すもの）の評価にも携わっている。また2009年には、オランダ・フェローシップ・プログラムのもとで奨学金を受けた卒業生を対象に、学習や研修が彼らの自己啓発とキャリアに与えた影響について追跡調査を実施した。この調査ではさらに、これらの卒業生が就職先において組織力強化の面でどのような影響を与えたかという点についても評価が行われた。

国際協力プロジェクト及びプログラムに対する評価

Nufficは、国際協力プロジェクトやプログラムに対する独立した評価を定期的にとりまとめているほか、第三者に代わってこうした評価を実施している。例えば2000年には、ノルウェー外務省の要請を受け、同国の大学研究協力プログラムであるNUFUの評価を行った。また、2004年と2005年には、エチオピアの教育セクター開発プログラムに対する共同評価調査団にチームリーダーを派遣したほか、2006年にはSida/SAREC 2国間研究協力プログラムの第三者評価にチームリーダーを提供している。2008年には、バングラデシュで2件の評価を主導した。ひとつはBRAC大学教育開発研究所への支援に対する中間評価、もうひとつはBRAC教育プログラムの第3周期評価で、さらにこれに合わせて同プログラムの第4周期の評価も実施した。VLIR-UOS（フランダース大学協議会 開発のための大学間協力）に関しては、Nufficはポリビア（2007年）、キューバ（2007年）、エクアドル（2010年）、フィリピン（2010年）の大学協力プログラムの評価に携わっている。

開発プロジェクトの調整と管理に関するセミナー

Nuffic は定期的に、Nuffic が運営するプロジェクトに携わる人々を対象としたセミナーを実施している。これには、論理的な枠組みに沿った方法でプロジェクトの提案書を作成するための研修や、プロジェクトの導入に関する具体的な問題について議論の場を設けることなどが含まれている。2006 年には、プロジェクト管理における卓越した取組に関するセミナーを開催した。また、NPT（オランダ・フェロースhip・プログラム）及び NICHE（オランダ高等教育能力開発イニシアティブ）に参加している組織を対象としたセミナーも定期的に行っている。セミナーでは、これらのプログラムの概略や技術的な側面に関する踏み込んだ情報が提供されている。

(2) 研修

Nuffic は、高等教育機関や国際機関を対象に様々な研修コースを提供している。オランダ国内の研究大学及びそれ以外の高等教育機関の教職員に対する研修コースを定期的で開催しているほか、国際機関に対しても、その専門知識の共有化を図るために、国際的な資格評価に関する講座等のコースを提供している。

国際的な資格評価に関する講座に関しては、対象となるグループや受講者の具体的な要望にあわせ幅広いコースを提供し、内容やレベル、期間、実施形態などの面で柔軟に対応している。いずれのコースも資格評価に用いられる基準や手続き、信頼性に関する問題点や実際の適用に関する学習が含まれる。さらに教育制度に関する基礎情報や情報源、アクレディテーション、資格認定の利用法、国際的な動向などについての学習が追加されることもある。

2-3-7) 情報サービス

Nuffic は、資格評価や関連するテーマに関する情報を提供するための様々な仕組みを整備している。大半の情報はコンピューター等を通じて電子的に提供されており、最新の情報をいつでもすぐに入手することができる。

Nuffic による情報サービスの主要なものは次の通りである。

- エクストラネット：オランダの大学の入試担当者や企業の採用担当者を対象としたウェブサイト。ディプロマ認定に関する最新動向やニュースを多数提供
- ニュースレター：年 2 回ニュースレターを発行（オランダ語）。Nuffic の各部門の活動や他国の教育制度における新たな動き、教育プログラムやディプロマの互換性に関する記事を中心に配信
- 資格評価や高等教育、専門職承認に関する情報を提供するウェブサイト（<http://www.idw.nl/>、<http://www.professionalrecognition.nl/>、<http://www.bologna-in.nl/>など）
- 国別モジュール（Country Modules）：特定の国の教育制度に関する一般的な情報、取得できる主な資格や当該資格の評価に関する情報を掲載。国外の資格をオランダの資格と比較した場合の全体的なレベルを概観するための資料となる。現在、「国別モジュール 日本版」が作成されているところであり、日本の教育制度の構成やオランダの高等教育機関の教育プログラムへの入学、オランダの機関への進学を目的とした場合の日本の学位の評価等に関する概説が含まれる予定である。

2-3-8) 国際ネットワーク

Nuffic は、高等教育の国際化に関する分析及び情報提供を通じて、オランダ政府と高等教育機関との間の意見交換の活発化に貢献している。

国内では、オランダ高等職業教育機関協会（HBO-raad）、オランダ大学協会（VSNU）、及びオランダにおける大学院レベルの国際教育機関の代表団体であるSAIL（Council of Institutes for Postgraduate International Education in the Netherlands）の3つの高等教育部門の代表組織と正式な協力関係を結んでいる。

国際的には、次のようなネットワーク組織との間で連携を図っている。

- *ACA : Academic Cooperation Association*（欧州学術協力協会）
ベルギー・ブリュッセルで設立された会員組織。高等教育における国際協力活動を管理、改善することを目的とする（<http://www.aca-secretariat.be/>）
- *Neth-ER : Netherlands House for Education and Research*（オランダ教育研究協会）
ブリュッセルに拠点を置く国際協会組織。研究、教育、革新性の育成において第一線で活躍するオランダの8団体によって設立。欧州のアクション・プログラムにおけるオランダの参画を拡充させることを目的とする（<http://www.neth-er.eu/>）
- *ASIE : Association for Studies in International Education*（国際教育学習協会）
国際教育及び高等教育のモビリティに関する研究を促進する組織のネットワーク。世界各地の国際教育関係者を代表する団体が参加（<http://www.asie.org/>）
- *ENIC-NARIC : ヨーロッパ情報センターネットワーク（ENIC）・全国学術承認センターネットワーク（NARIC）*
欧州評議会及びUNESCOが設立したENICと、欧州連合が設立したNARICによるネットワーク。欧州で発行されるディプロマ・資格に関する評価や認定に携わる。NufficはオランダにおけるENIC/NARICとして機能しており、ネットワークの中でも最大の規模を誇るだけでなく、その業務内容は高い評価を得ている（<http://www.enic-naric.net/>）
- *EUA : European University Association*（欧州大学協会）
欧州の46か国の大学を代表する組織。加盟大学間の協力を促すとともに、高等教育や研究に関する政策の最新動向を提供するフォーラムを開催する（<http://www.eua.be/>）
- *EAIE : European Association of International Education*（欧州国際教育協会）
国際教育に従事し、専門家グループに所属する人々のネットワーク。ノウハウの交換や経験の共有を目的とする（<http://www.eaie.org/>）
- *NAFSA : Association of International Educators*（全米国際教育者協会）
加盟機関及び団体、国際教育や国際交流、グローバルな労働力開発に携わる人々を対象に、知識の創出と普及、公共政策に影響を及ぼす活動、協会としてのつながりを維持するための活動を行う米国の組織。Nufficは長年にわたりオランダの高等教育を代表する機関としてコーディネーター役を務めている（<http://www.nafsa.org/>）

出典：

Nuffic website: <http://www.nuffic.nl/>

Nuffic (2010): Nuffic Annual Overview 2009.

Sander van den Eijnden (Nuffic): View on Internationalization (NIAD-UE Seminar material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).

Marijke Blom-Westrik (Nuffic): Bologna Process - Mutual Recognition of Qualifications in Higher Education (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

Marijke Blom-Westrik (Nuffic): Credential Evaluation in the Netherlands (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).

出典・参考資料

- Dutch Ministry of Education, Culture and Science (2010): *Towards More Transparency in Higher Education: The Dutch National Qualifications Framework*.
- Dutch Ministry of Education, Culture and Science (2009): *Key Figures 2004-2008*.
- Dutch Ministry of Education, Culture and Science (2008): *Strategic Agenda for Higher Education, Research and Science Policy*.
- Dienst Uitvoering Onderwijs (DUO) (2009): *Everything about student finance for students and graduates*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2009): *General Introduction to Accreditation in the Netherlands and Flanders*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2009): *2nd Phase of Accreditation - the Netherlands and Flanders*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2009): *Learning Outcomes: Concept and Assessment*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2009): *Reservoirs and Rapids: Annual Report 2008 Summary*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2003): *Accreditation Framework - The Netherlands*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO) (2003): *Initial Accreditation Framework - The Netherlands*.
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO): *Programme accreditation and internationalisation - A distinctive (quality) feature for internationalisation -*.
- Karl Dittrich (NVAO): *Reforming Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands* (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).
- Karl Dittrich (NVAO): *Internationalisation of Higher Education: Europe's Vision and the Attitudes of the Netherlands and Flanders* (NIAD-UE Seminar presentation material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).
- Karl Dittrich (NVAO): *Introduction to the TEAM II project* (ECA Seminar material, 10th June 2010, Graz, Austria).
- Karl Dittrich (NVAO): *Toward a (European) certificate for internationalisation?: A NVAO proposal* (NVAO-ECA Seminar material, December 2009, The Hague, The Netherlands).
- Mark Frederiks (NVAO): *Approaches Regarding Quality Assurance of Joint Programmes and Internationalisation* (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).
- Mark Frederiks (NVAO): *Accreditation of Joint Programmes* (ECA Seminar material, 26th March 2010, Warsaw, Poland).
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2010):

Nuffic Annual Overview 2009.

- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2010): *Link Int!: Strategic Framework 2010.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2009): *Nuffic Annual Overview 2008.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2009): *Higher Education in the Netherlands.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2009): *Linking Knowledge Worldwide.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2009): *Recognition Practice in the Netherlands.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2008): *Internationalization in Higher Education in the Netherlands: Key Figures 2008.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2008): *Internationalization in Education in the Netherlands 2007.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2009): *Most people see windmills: Life and Study 2010/2011.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2008): *Most people come for the tulips: Life and Study 2009/2010.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic) (2008): *Most students prepare for a study: International Degree Programmes 2009/2010.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic): *Enter Int!: Internationalization in Higher Education - A Strategic Framework for Nuffic.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic): *Prior Learning Assessment and Recognition in the Light of Bologna 2005.*
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic): *Knowledge without borders: Credential evaluation and recognition.*
- Sander van den Eijnden (Nuffic): *View on Internationalization* (NIAD-UE Seminar material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).
- Marijke Blom-Westrik (Nuffic): *Bologna Process - Mutual Recognition of Qualifications in Higher Education* (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).
- Marijke Blom-Westrik (Nuffic): *Credential Evaluation in the Netherlands* (NIAD-UE Seminar material, 16th June 2010, Tokyo, Japan).
- Jessica Stannard (Nuffic) (2009): *Recognition Practice in the Netherlands.*
- Jan Nedermeijer (Leiden University) (2010): *Accreditation in the Netherlands: experience from an accreditation panel member.*
- Thomas de Bruijn (Leiden University) (2010): *Accreditation and Quality Assurance: theory and*

practice at Leiden University.

- University of Amsterdam (2010): *Quality Assurance at the University of Amsterdam.*
- State University of Groningen (2009): *Welcome to the State University of Groningen: A Handbook for International Students 2009-2010.*
- State University of Groningen (2005): *Integrated Quality Assurance for Education at the State University of Groningen.*
- State University of Groningen (2005): *State University of Groningen Education Quality Assurance Manual.*
- Ineke Ganzeveld (State University of Groningen): *Quality assurance at the State University of Groningen, 2009.*
- Radboud University Nijmegen (2009): *Radboud University Nijmegen: ECTS Information Guide 2009-2010.*
- Margreet de Lange (Utrecht University) (2010): *Quality Management in Higher Education in the Netherlands.*
- Wageningen University (2010): *Internal quality assurance and enhancement at Wageningen University.*
- Association of Universities in the Netherlands (VSNU) (2010): *The Power of Knowledge: Exploring the Results of University Research.*
- Association of Universities in the Netherlands (VSNU) (2006): *Quality Assurance and Accreditation in the Netherlands.*
- Association of Universities in the Netherlands (VSNU), the Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences (KNAW) and the Netherlands Organisation for Scientific Research (NWO) (2009): *Standard Evaluation Protocol 2009-2015, Protocol for Research Assessment in the Netherlands.*
- European Commission (2010): *Erasmus Mundus: International Quality Assurance - the Erasmus Mundus Experience* (NIAD-UE Seminar presentation material, 17th June 2010, Tokyo, Japan).
- European Commission, the Directorate-General for Education and Culture (2008): *Tuning - Universities' Contribution to the Bologna Process: An Introduction (2nd Edition).*
- European University Association (EUA) (2010): *Trends 2010: A Decade of Change in European Higher Education.*
- European Consortium for Accreditation (ECA) (2010): *The Recognition of Qualifications Awarded by Joint Programmes 2010.*
- Centre for Higher Education Policy Studies (CHEPS) (2007): *Higher Education in the Netherlands: Country report.*
- *The Europe World of Learning 2010, 60th Edition Volume I - II*, Routledge: London, 2009.
- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) (2010): *International*

Comparative Education: Statistics 2010-2011.

- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) (2009): *International Comparative Education Statistics 2009-2010.*

ウェブサイト

- Dutch Ministry of Education, Culture and Science: <http://english.minocw.nl/>
- Embassy of the Kingdom of the Netherlands in Tokyo: <http://japan-jp.nlembassy.org/>
- Netherlands Board of Tourism and Conventions: <http://www.holland.com/>
- Dienst Uitvoering Onderwijs (DUO): http://www.ib-groep.nl/International_visitors/
- Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (NVAO): <http://www.nvao.net/>
- Netherlands organization for international cooperation in higher education (Nuffic): <http://www.nuffic.nl/>
- Association of Centres of Expertise on Vocational Education, Training and the Labour Market (Colo): <http://www.colo.nl/>
- Information Centre for Credential Evaluation (IDW): <http://www.idw.nl/>
- Leiden University: <http://www.leiden.edu/>
- State University of Groningen: <http://www.rug.nl/>
- Radboud University Nijmegen: <http://www.ru.nl/english/>
- Delft University of Technology: <http://home.tudelft.nl/en/>
- Wageningen University: <http://www.wageningenuniversity.nl/>
- Association of Universities in the Netherlands (VSNU): <http://www.vsnunl.nl/>
- The Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences (KNAW): <http://www.knaw.nl/>
- The Netherlands Organisation for Scientific Research (NWO): <http://www.nwo.nl/>
- The Dutch National Union of Students (LSVb): <http://www.lsvb.nl/>
- AIESEC the Netherlands: <http://www.aiesec.nl/>
- AEGEE: <http://www.aegee.org/>
- EURAXESS THE NETHERLANDS: <http://www.euraxess.nl/>
- Studentnews.eu: <http://tertiary-education.studentnews.eu/>
- OECD: <http://www.oecd.org/>
- INQAAHE: <http://www.inqaahe.org/>
- European Commission (EC): <http://ec.europa.eu/>
- European Commission, Education and Training: <http://ec.europa.eu/education/>
- European Commission: *Eurybase - Organization of the Education System in the Netherlands 2009/09*: <http://www.eurydice.org/>
- European Commission: *Eurybase - The Education System in the Flemish Community of Belgium*:

<http://www.eurydice.org/>

- European University Association (EUA): <http://www.eua.be/>
- The ENIC Network (European Network of Information Centres): <http://www.enic-naric.net/>
- European Consortium for Accreditation (ECA): <http://www.eacaconsortium.net/>
- Grossroads: <http://www.grossroads.eu/>
- Tuning: <http://unideusto.org/tuning/>
- Times Higher Education: <http://www.timeshighereducation.co.uk/>
- Shanghai Jiao Tong University, the Academic Ranking of World Universities:
<http://www.arwu.org/aboutARWU.jsp>
- U.S. Department of State: <http://www.state.gov/r/pa/ei/bgn/index.htm>
- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT):
<http://www.mext.go.jp/>
- Ministry of Foreign Affairs of Japan: <http://www.mofa.go.jp/>
- National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE):
<http://www.niad.ac.jp/>
- Japan Student Services Organization (JASSO): <http://www.jasso.go.jp/>
- Overseas Vocational Training Association (OVTA): <http://www.ovta.or.jp/>

諸外国の高等教育分野における質保証システムの概要

オランダ

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1

<http://www.niad.ac.jp>